

第 9 回

越 谷 市 教 育 委 員 会 議 事 録

令和5年 8 月 1 7 日

臨 時 会

令和5年第9回越谷市教育委員会議事録

招集年月日 令和5年8月17日（午前の部）
招集の場所 越谷市役所本庁舎8階 第1委員会室
開閉会日時 開会8月17日 午前 9時30分
閉会8月17日 午後 0時23分

出席委員

教 育 長	吉 田 茂	教 育 長 職務代理者	野 口 久 男
委 員	荒 木 明 子	委 員	渡 辺 律 子
委 員	山 口 文 平	委 員	東 宏 行

欠席委員 な し

説明のため会議に出席した者の職氏名

教 育 総 務 部 副 参 事 兼 教育総務課長	會 田 修	指 導 課 長	佐 藤 泰 弘
		教育センター 所 長	菊 池 邦 隆
		指導課調整幹	二 瓶 剛
		指 導 課 主任指導主事	赤 塚 みゆき

職務のため会議に出席した者の職氏名

教 育 総 務 課 調 整 幹	鈴 木 理 香
--------------------	---------

令和5年第9回越谷市教育委員会議事録

招集年月日 令和5年8月17日（午後の部）
招集の場所 越谷市役所本庁舎8階 第1委員会室
開閉会日時 開会8月17日 午後 1時35分
閉会8月17日 午後 4時35分

出席委員

教 育 長	吉 田 茂	教 育 長 職務代理者	野 口 久 男
委 員	荒 木 明 子	委 員	渡 辺 律 子
委 員	山 口 文 平	委 員	東 宏 行

欠席委員 な し

説明のため会議に出席した者の職氏名

教 育 総 務 部 副 参 事 兼 教育総務課長	會 田 修	指 導 課 長	佐 藤 泰 弘
		教育センター 所 長	菊 池 邦 隆
		指導課調整幹	二 瓶 剛
		指 導 課 主任指導主事	赤 塚 みゆき

職務のため会議に出席した者の職氏名

教 育 総 務 課 調 整 幹	鈴 木 理 香
--------------------	---------

[illegible]

◎開会の宣告

吉田教育長 それでは、これより 8 月の臨時教育委員会会議を開会いたします。

本臨時会に関し、14 名の方から傍聴許可願が提出されていますので、許可いたします。また、会議中に、許可願が提出された場合は、同様に許可いたします。

〔傍聴人入室〕

(午前 9 時 30 分)

◎第 33 号議案 「令和 6 年度使用小学校教科用図書の採択について」

吉田教育長 それでは、7 月 27 日に行われた 7 月定例教育委員会会議において継続審議となっておりました第 33 号議案 令和 6 年度使用小学校教科用図書の採択について審議を行います。

今回の令和 6 年度使用小学校教科用図書の採択について、改めて指導課長から説明をお願いします。

指導課長。

佐藤指導課長 それでは、第 33 号議案 令和 6 年度使用小学校教科用図書の採択についてご説明を申し上げます。

恐れ入りますが、会議要項の 1 ページをお開きください。

第 33 号議案 令和 6 年度使用小学校教科用図書の採択について。

令和 6 年度使用小学校教科用図書を別紙のとおり採択するものとする。

令和 5 年 7 月 27 日提出、越谷市教育委員会教育長。

提案理由でございますが、小学校教科用図書の採択替えに伴い、令和 6 年度使用小学校教科用図書を採択する必要があるため、提案するものでございます。

越谷市立小中学校で使用する教科用図書の採択につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 21 条第 6 号及び越谷市立小中学校使用教科用図書の採択に関する要綱第 3 条の規定により、本市教育委員会で行うこととなっています。

恐れ入りますが、3 ページをお開きください。今年度採択する小学校教科用図書は、採択一覧表でお示ししましたとおり 14 種目でございます。今回、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 14 条及び同法施行令第 15 条の規定に基づき、教科用図書の採択が 4 年を経過することから実施するものでございます。なお、採択された教科用図書につきましては、令和 6 年度から 4 年間の使用となります。

採択の手順につきましては、越谷市立小中学校使用教科用図書採択事務要領に基づき行います。はじめに、越谷市立小中学校使用教科用図書選定委員会委員より選定資料に基づく報告を行い、続いて教育長及び教育委員の皆様からの質疑にお答えいたします。その後、教育長及び教育委員

の皆様でご協力いただいた後、採択をお願いいたします。

第33号議案についてのご説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

吉田教育長 審議に入る前に、委員会の皆様にお諮りいたします。

採択の方法ですが、種目ごとに全部の教科用図書発行者について、私及び委員がそれぞれ5段階で評価した上で順次無記名で投票し、評価点数の総合計が最も高い教科用図書発行者を採択することにしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。よろしいですか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

吉田教育長 ここで、傍聴人の方にお知らせいたします。

傍聴の心得にあるように、議案の進行を妨げるような言動はお控えいただきますようお願いいたします。

静謐な会議の進行にご協力をお願いいたします。

生活の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 生活の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

沖田選定委員 生活科は7社でございます。思考力、判断力、表現力等の育成、学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫、そして気づきの質を高めるための工夫については、どの会社も児童の写真やイラスト、吹き出し、また多様な表現活動や作品名が掲載されていました。また、表記・表現では、文節で分ける、改行する、漢字のルビ、UDフォントなど、大きな差はありませんでしたので、特徴的な点についてご説明いたします。

はじめは、東京書籍です。生活上必要な習慣や技能が身に付くように、巻末に「かつどうべんりてちょう」、下巻35ページに「やくそく」などが掲載されています。また、下巻40、41ページの「いきものずかん」、54、55ページの「おもちゃずかん」のような何々ずかんとして、単元の内容に合わせて、また学習活動に即した習慣や技能に関する資料が設けられています。例えば、上巻34、35ページの「かんさつずかん」では、観察カードの書き方や視点が詳しく掲載されています。下巻の巻末の「かつどうべんりてちょう」には、気づいたことを基に考えるヒントや気づいたことを整理し、表現する方法が例示されています。思考力、判断力、表現力等の育成ができるような資料としてまとめられています。

下巻30ページのように、単元の扉のページには、児童のこれまでの経験を想起させ、やってみようという気持ちを喚起させて、スムーズな導入が図れるようなダイナミックな写真が掲載されています。また、下巻14、50、74ページなどのように、単元ごとに「学びをふかめる」コーナーがございます。そのコーナーがあることにより、学びの過程が深まり、言語活動を通して気づきの質を高める工夫がございます。

資料としては、上巻121ページのように、原寸大の動植物図鑑「ほんとうのおおきいものずかん」も掲載されています。

表記・表現として特筆する点は、国語との関連から、吹き出しや学習カードでは、文頭は1文字下げられています。また、小單元ごとに活動のめあてと育成を目指す資質・能力が、3種類のマーク、例えばクエスチョンマーク、びっくりマーク、ハートのマークで示され、指導と評価の一体化が図れるようになっています。

下巻15ページは国語との関連が、51ページは算数との関連が示されているなど、他教科との関連を掲載し、他教科で身に付けた学びを生活科の学習の中で生かそうとする意識が持てるよう工夫されています。

続いて、大日本図書です。生活上必要な習慣や技能が身に付くように、巻末の「がくしゅうどうぐばこ」に豊富な資料が掲載されています。また、ところどころに掲載してある「やくそく」のコーナー、例えば上巻23ページや27ページのように「やくそく」のコーナーを含め、基本的な知識や技能の習得が図られるように配慮されています。

また、上巻7ページには「きらきらことば」、58ページに「せいかつのことば」が設けられ、人との関わりが深まる言葉を示し、児童の語彙力の向上とともに表現活動の充実が図れるような工夫がごさいます。さらに、下巻116、117ページの巻末に、「話しかた名人・聞きかた・話し合いかた名人」で、話し合いや発表の仕方を分かりやすく例示し、豊かに表現できるように配慮されています。

また、気づきの質を高めるために、上巻の82、83ページに、モノクロ写真を使用したページを設け、児童の興味関心を刺激し、活動への意欲や期待を引き出す工夫があります。加えて、下巻21、37ページのようにカードがあったり、また下巻16ページにビンゴがあったり、書き込み欄を設け、児童が楽しみながら活動を進められるような工夫もごさいます。

そして、下巻12、13ページのように、単元の扉には見開きでダイナミックな写真が掲載されています。タンポポの綿毛が載っていたり、下巻30、31ページには、子どもがカマキリを捕まえようとするようなダイナミックな写真が掲載されています。また、下巻124、125ページの巻末の資料「がくしゅうどうぐばこ」の最後には、他国とのつながりについても取り上げられ、学習の広がりや外国活動との関連性も図られています。

続いて、学校図書です。生活上必要な習慣や技能が身に付くように、各單元の中の必要な場所で「やくそく」「ものしりノート」「ものしり図かん」に豊富な資料が掲載されています。例えば、上巻15、17ページに「やくそく」、下巻46、47ページに「ものしりノート」が載っています。「ものしりノート」には、その單元に合った動植物や施設、野菜の育て方、おもちゃの作り方など、学習の補助的な資料が豊富に載っています。下巻33ページには、越谷市の児童館も掲載されています。また、巻末の「まなびかたずかん」には、学びや活動の基礎となる技能や内容がまとめら

れています。

気づきの質を高められるように、各見開き左上には、活動のめあてと児童の思いや願いを基にした言葉があり、また児童が自分で考えるヒントとなり、主体的に学習に取り組めるよう工夫されています。身近な人々や社会、自然との関わりをカードに記録していくなど振り返りを重視した構成になっています。例えば、下巻の野菜作りの単元の49、51、55、57ページのように、単元末で蓄積した記録を基に思考を整理したり、表現方法を考えたりすることができるよう工夫されています。

また、下巻57、83ページのように、紙面の見開き右下には、4人のキャラクターの対話の言葉を示し、児童が活動への意欲を持ち、自己決定していく場面を設けています。また、下巻58、74ページのように、単元末には「もっと」のページを配置し、学んだことを生かして意欲的に活動を持続、発展できるようになっています。単元の見開きページを1つの学習単位として、主体的・対話的に活動し、伝え合い、振り返る構成になっています。単元ごとにメインキャラクターを設定し、そのキャラクターが変容していく様子が表現されています。

表記・表現として特筆する点は、各単元のメインキャラクターの吹き出しに色をつけ、活動の流れを分かりやすくしています。また、体育、図工など、主に表現活動を中心に他教科との関連が図られ、相互の学習効果を高められるよう工夫されています。例えば下巻56ページには図工の作品が掲載されていたり、69ページには体育の活動がイメージできるようなイラストも掲示されています。

続きまして、教育出版です。生活上必要な習慣や技能が身に付くように、巻末「学びのポケット」に記録する、伝えるなど、学習の基盤となるよう知識や技能を掲載しています。また、生活上必要な習慣については、例えば下巻81ページのように、コラム「やくそく」に位置づけられています。絵や写真、キーワード、例えば下巻59ページには「見えるかな」、上巻17ページ「できるかな」、57ページ「生きものの気持ちになれるかな」などのコラムを設けて示されています。

下巻77ページのように、各単元の導入に「わくわくすいっち」、続いて「はっけんロード」、試行錯誤を促す「かんがえまとめいろ」、83ページに振り返りを助ける「ぐんぐんはしご」、89ページまでにそれらを設け、主体的な学びが展開できるようになっています。気づきの質を高めるために、「はてなマーク」で具体的な問いかけが設定しており、単元の所々のページには「ヒント」のコラムが設けられており、多様な学習活動が繰り返し行えるように工夫されています。そして、単元末には振り返りの時間を想定した「なにをかんじたかな」が設定されています。例えば下巻32、33ページのように「なにをかんじたかな」が設定されていて、児童がしっかりと考え、次の学習への目標や意欲、自信を育める構成になっています。

小単元ごとに生活科で育てたい力が6つの「サイコロ」、例えばページの左側に示されています。気づくとか、挑戦するとか、伝える、考えるなどですけれども、それが示され、児童や教師が共

に学習や活動の狙いを把握しやすくなっています。また、下巻31、79ページのコラム「はってん」に、理科や社会科など他教科との関連を具体的に示し、系統性を意識できるようになっています。巻末「学びのポケット」に教科とのつながりを図示することで、今後の学習とのつながりが明確になっています。

続いて、信州教育出版です。こちらは、見本はございません。生活上必要な習慣や技能が身に付くように、注意することや大切なことはマークや絵などを使って示されています。地域の特色や、実際の行事の写真や絵、短い台詞などの言葉で示されています。また、活動の様子が地域性を生かした場所や行事など、児童にとって身近に感じられる写真で示されています。また、友達同士の学び合いの姿や情報交換をする場を例示することで、児童の思いや願いから次の活動を考えたり、表現したりできるように工夫されています。

気づきの質を高めるために、地域の自然、人々、行事に直接関わることで地域のよさが分かるように構成が工夫されています。見開きページに単元を象徴する写真や挿絵を掲載し、活動への意欲を高めることができるように工夫されています。

表記・表現として特筆する点は、縦書き、右開きで構成されている点です。

地域に生まれ地域に育つ児童が、四季を通してその場所に関わることを重視し、地域に根差した人・もの・ことと直接関わったり触れ合ったりすること、そして動植物の継続的な関わりを通して、ふるさとへの愛着が深められるような内容構成になっています。「家庭に始まり家庭に帰る」をコンセプトに、家庭・地域とともに育てる生活科の実践を目指すよう工夫されています。

続きまして、光村図書です。生活上必要な習慣や技能が身に付くように、上下巻ともに別冊「ひろがるせいかつじてん」にまとめられています。また、上巻75、97ページのように「もっとやってみよう」があり、学習を広げるような資料が掲載されています。

例えば、上巻70、72ページの見開き下のように「学び方のヒント」、六角形のマークですが、それでも、「学び方のヒント」が全て小単元の左下に設定され、つまりいたときや試行錯誤するときに大切な考え方や、活動、表現のバリエーションのヒントを示し、児童が考え、表現していくように工夫されています。

資料として、別冊「ひろがるせいかつじてん」の他に、上巻には「はるのなかまたち」、「ふゆのなかまたち」等の別冊が用意され、学習の仕方や動植物が掲載されています。

例えば上巻79、81、82ページのように小単元ごとに「ふりかえろう」があり、次の学習に生かせるよう振り返りの場が設けられています。また、83、106ページのように、各単元の最後に「たのしいまいにちにつなげよう」が設けられており、単元の学びを日常生活で生かしたり、生活を豊かにしようとするためのヒントが提示されています。加えて、上下巻の巻末には身に付けた資質、能力を振り返り、次の学年の学習をイメージできるように工夫されています。例えば上巻108、109ページ、下巻96、97ページの「もっとやってみよう」でそれが示されています。

気づきの質を高めるために、全単元に活動のヒントや気づかせたいポイントなどを載せて、例えば上巻59、71ページに、「ヨシタケさんのコーナー」【こんなこともあるかもね・こんなのもいいかもよ】のコーナーを設け、児童が自ら考える力を育てる工夫があります。

続いて、啓林館です。生活上必要な習慣や技能が身に付くように、単元の中に「こんなときどうしよう」「きろくしよう」「学びのヒント」がございます。例えば下巻65ページに掲載されています。また、巻末の「がくしゅうずかん」に基本的な生活習慣や技能、健康や安全に関する知識や調べ方や記録の仕方などの資料が掲載されています。

各単元は、「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の3部構成で、学習内容が分かりやすくなっています。意欲や自信を持って学び、生活を豊かにしようとする態度を養うために、導入の「わくわくタイム」で児童の心を揺さぶり、思いや願いを高める工夫があります。単元末の「ぐんぐん」では「できるかな できたかな？」で学習を振り返り、自らの成長や学びの深まりを実感し、満足感や成就感が得られるように、そして各単元末の「ひろがるきもち」で、さらに深く学んだり、生活に生かしたりする児童の姿が示されています。

気づきの質を高めるために、右下部分に、例えば下巻69ページのように「めくり言葉」を設定し、学習を自己とのつながりを意識しながら進めたり、児童の思いや願いを文字化して意欲を高められたりするような工夫があります。

資料としては、目次をご覧くださいと分かりやすいのですが、下巻に例えば4つ、上巻には7つの「びっくりずかん」があります。また、巻末の「がくしゅうずかん」もあり、動植物や季節のイベントなど、児童の知的好奇心を刺激し、学び方や活動の仕方を可視化する資料も豊富です。そして、上巻初め、また下巻の終わりにはミニブック、上巻の初めには「がっこうだいすき すたあとぶつく」、下巻の終わりには「3年生へのステップブック」を設定し、接続期の学習を充実させる構成となっています。また、例えば上巻104、105ページにあるように、タブレットや電子黒板などICT機器を活用した場面を多く取り上げ、教室外の体験と教室内の学びをつなげる工夫がございます。

吉田教育長 ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて、選定委員の回答を求めます。質問ございますか。

渡辺委員。

渡辺委員 選定委員会としては、どの教科書を推薦するのでしょうか。

佐々木選定委員長 選定委員会では、調査研究報告書、学校における教科書の調査研究報告や法定教科書展示会会場において来場者の皆様が提出した意見なども参考にしつつ協議を行い、協議終了後、選定委員16名全員が7種類の教科書発行者について評価をそれぞれ5段階で記載し、無記名で投票いたしました。80点が満点となります。

その結果でございますが、2番、東京書籍56点、4番、大日本図書49点、11番、学校図書73点、

17番、教育出版49点、26番、信州教育出版21点、38番、光村図書63点、61番、啓林館48点。

本選定委員会といたしましては、点数の多かった順に、73点の学校図書、63点の光村図書、56点の東京書籍を推薦いたします。

渡辺委員 ありがとうございます。

吉田教育長 よろしいですか。他にございますでしょうか。

東委員。

東委員 選定委員会で、どれもよくできているというお話だったのですが、得点は差がついていて、どんな話題が出てこういう点になったのかなというところを知りたいので、話題になった内容についてお話いただければと思います。

沖田選定委員 選定委員会では、大きく2つの話題が出ました。

1点目は、保幼小の接続期の学習として、スタートカリキュラムが各社どのように工夫されてくるかということ。

そして、2点目は、道具の扱い方について、資料の軽重の差はあるが、各社きちんと記載があることなどが話題として出ました。

吉田教育長 よろしいですか。

東委員 はい。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

山口委員。

山口委員 学校の調査報告書では、どの教科書会社の推薦が多かったのか。また、その理由について教えてください。

沖田選定委員 学校からの推薦では、学校図書を推薦する学校が最も多く20票、続いて光村図書が11票、大日本図書が5票という結果でございました。

推薦理由といたしましては、東京書籍は「何をしようかな」など、単元のタイトルに工夫がある。そして、季節の移り変わり等の比較可能な資料が豊富である。

大日本図書は、表紙が鮮やかで目を引く。イラストが分かりやすく、子どもたちが学習に取り組みやすい。

学校図書は、具体的な活動方法や学習のまとめが例示されており、見通しが持てる。多様な表現活動が提示されている。

教育出版は、写真が美しく分かりやすい。「たんけんたい」など、児童の興味を引くタイトルになっている。

信州教育出版は、特に見本がないのでございません。

光村図書は、活動・振り返りと、授業に沿った展開になっており、気づきの質を高める工夫がある。挿絵が子どもたちの思考を助ける言葉とともに掲載されている。

啓林館は、学習のポイントが捉えやすい構成である。交通安全や衛生面のことも詳しく書かれているなどの意見がございました。

吉田教育長 よろしいですか。

山口委員 はい、わかりました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 生活科では日常生活の中で必要な技能や習慣を身に付けることが大切だと思いますけれども、各社で何か工夫があるでしょうか。

沖田選定委員 日常生活の中で必要な技能や習慣、例えば挨拶や安全面での動画の使い方の「やくそく」ですとか、学習の仕方については単元の中の活動の中で必要な場面にそれぞれ掲載されていたり、また巻末に資料としてまとめて掲載されていたりと、いずれも分かりやすく掲載されていました。

野口教育長職務代理者 ありがとうございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 選定委員会には、1号委員として保護者がいらっしゃいますが、どのような意見が出ましたでしょうか。

佐々木選定委員長 低学年の教科なので、ものを作ったり観察という作業が実際は多いものですから、特に安全面が気になるということで、注意書き等がきちんと書かれていると安心だという意見が出ました。

吉田教育長 よろしいですか。

荒木委員 はい。

吉田教育長 他に何かございませんか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 他になれば質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。

まず、調査の観点1、内容についてご意見ございますか。

山口委員。

山口委員 生活という教科に関しては、幼稚園、保育園との連携も大事だと思うのですが、学校図書では「はじまるよししょうがっこう」という印象的なタイトルで、小学校に入ってから導入がうまくなされているように思いました。各社工夫があって、手洗いなどについては各社あるのですが、こちらについても丁寧に書かれていると思いました。

また、学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫として、これも多くの会社でカードにまとめるような指導内容があったのですけれども、学校図書でもいろいろなカードにまとめて自分の意見を言葉にして話し合いができるように促しているところは、良いと思いました。

気づきの質を高めるための工夫ですけれども、各社いろいろ工夫されている中で、学校図書は見開きで1つの単位になっていて、最初の左上のところに、写真の児童がキャラクターの言葉に託して目標が分かりやすく提示されているのは、優れた方法だなと思いました。以上が、気づいた特に良いと思ったところです。

吉田教育長 関連してでもいいですが、他にございますか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 それでは、私は学校調査の現場の意見を見させていただいたのですけれども、学校図書の「ものしりノート」というのは充実していていい、という意見が大分目につきました。例えば学校図書の上巻30、31ページに「たねをうえよう」で、たねまきの仕方について図解してあるのですけれども、こういうところが現場としては非常に使い易いという意見が出ているのかなと思いました。そういった意味で、選定委員会の推薦する教科書についても、それが反映されているのかなと感じました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 野口委員と同じように、私も少し花の種のところを各教科書の比較をしてみました。そうしたところ、例えば啓林館の23、24ページ、まず種を見せて、さて、これは何の種かなというところから始まります。その次に、24、26ページ、少しずつページをずらしていくような形で、子どもたちに推測をさせるような工夫があります。また、教育出版ですと、同じく花の種のところなのですけれども、26ページに種があります。ページを少しずつめくりずらしていくと、種からふたばになって、最後に種を取ろうというところに進むなど、各会社、すぐく子どもの興味を引くように設定ができているなと思いました。

私が良いと思ったのは東京書籍なのですけれども、上巻27、28ページを見てみますと、まず種と花が出ていて、30ページを開くと、特にページをずらさなくてもふたばがあって、そしてつぼみができてという形できれいに連続的に見ることができて、これが非常に良いと思いました。

また、学校図書を見てみますと、こちらはアサガオに特化した形で書かれていて、良いと感じました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 私もほかの委員さんと同じように感じたのですけれども、特に学校図書は上下巻とも巻末に「まなびかたずかん」があって、学び方のヒントが示されていて、活動の参考になると思い

ました。

また、東京書籍は、全て単元の初めに表情豊かな子どもたちの大きな写真があり、これから始まる活動へのわくわく感が高まると思いました。こちらは観点2とも関連するのですけれども、挿絵がリアルで、描かれている人物の表情も豊かで、学びが深まると感じました。

吉田教育長 よろしいでしょうか。

東委員。

東委員 私は感想になるのですけれども、とてもよくできていて、いや、本当に甲乙つけ難いなと思ったのですが、特に「やくそく」というのがいろいろなところに入っていて、生活科の中ですごく大切だなと思いました。1つの会社だけではなくて、複数の会社がやはり「やくそく」が入れてあり、この点で甲乙つけ難かったのです。ただ、個人的には大日本図書の「せかいのなかま」とか、白黒の動画を使っているのは非常に面白かったです。私も見てみたのですが、白黒からカラーに変わっていくので、そのような興味関心をかき立てる工夫がデジタルにもありました。

学校図書も、種を植えていく部分は動画を非常に効果的に使っていて、時代が変わってきたというか、動画を上手に使っていると思いました。

光村図書もすごくいいなと思ったのですが、別冊が小学校の低学年でどうかなと思って、紛失してしまうのではないかなと思って、少し心配だったのだけれどもよくできていて、どれが一番良いかというのを3つぐらいに絞れるかなとは思ったのです。

吉田教育長 協議内容1については、大体ご協議いただいたことと思います。

続いて、協議2、3、4として、資料から表記・表現、そして総括に至るまで、まとめて協議したいと思います。この点についてご意見ございますでしょうか。

山口委員。

山口委員 まず表現についてですけれども、学校図書なのですから、発達段階や児童の実態に対する配慮として、案件ごとにテーマカラーを設定して学習内容が明確になっているというところが特に優れているなと思いました。

また、気づいたことや楽しかったことについて、多様な表現して、考えることができるようにするための工夫として、学校図書では学んだことを劇やペープサート、あと壁新聞にまとめることで表現したり感想を言ったりできるような工夫がされているのが良いと思いました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

よろしいですか。

〔「はい」と答える者あり〕

吉田教育長 他に協議したい内容はございますでしょうか。これもよろしいでしょうね。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 ないようですので、これより生活の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 それでは、順次投票をお願いいたします。

〔順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはございませんか。

投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、野口委員、それから山口委員を指名いたします。

〔立会人立会いの上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告いたします。

投票結果については、発行者の番号順に、発行者番号、発行者名、評価点の合計点を読み上げます。

2 番	東京書籍	2 2 点
4 番	大日本図書	2 0 点
1 1 番	学校図書	3 0 点
1 7 番	教育出版	1 7 点
2 6 番	信州教育出版	1 1 点
3 8 番	光村図書出版	2 5 点
6 1 番	啓林館	1 8 点

以上のとおり、生活の教科用図書は、11番、学校図書を採択することに決定しました。

次に、社会の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 社会の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

佐々木選定委員 社会科は、3つの発行元の教科書でございます。基本的に3年生は越谷市の学習を、4年生は埼玉県学習を、5、6年生は日本と世界の学習をする構成となっていて、同心円的に社会科の見方、考え方を使いながら学習を深めていく構成となっていますので、3、4年生

につきましては主に越谷市教育委員会の作成する副読本「わたしたちの越谷」を活用して授業をしています。そのため、今日は5年生の教科書を主に使いながら説明をさせていただきます。

まず、1内容についてです。どの教科書につきましても、問題解決的な学習過程を取っています。東京書籍は、「つかむ」「調べる」「まとめる」「ひろげる」「生かす」の過程となっていて、5年生の上の教科書の2、3ページをご覧くださいだと思います。ここに教科書の活用の仕方が詳しく説明されています。

教育出版は、「つかむ」「調べる」「まとめる」「もっと知りたい」「つなげる」となっていて、同じく教育出版の5年生の教科書の6、7ページで学習過程に沿った学び方の説明がされています。

日本文教出版は、教科書の下欄に「問題を発見する力を身に付けよう」「問題を追究、解決する力を身に付けよう」で示されています。また、2ページから5ページを使って問題の発見、追究、解決、身に付ける、問題を掘り下げるの流れや、教科書の使い方を詳しく説明しています。

続いて、内容についてですが、5年生の漁業の単元を比較しながら説明させていただきます。漁業単元は、埼玉県越谷市の子どもたちにとっては、海なし県ですので少し難しい単元になります。例えばマグロは切り身でしか見たことがない子どもたちも多数いますし、水産加工品が魚から作られていることが分からない子どもたちも案外いるということになります。このようなレディネスからのスタートとなる単元です。

東京書籍、上の94、95ページ見開きに「まなび」のポイントが示されており、その時間で行う学習活動が明確化し、課題意識を持って学習に取り組むことができるよう工夫されています。社会科は用語の難しさがありますが、用語解説が載せられています。課題意識を持たせるため、必要な資料が精選されて載せられていて、どの教員も教科書に載っている資料を使えば授業をすることができます。調べる場面でも、魚を捕るための工夫の分かる様々な写真資料等を載せています。調べることが提示されていて、「まなび方コーナー」により自力解決がしやすくなっています。カツオを取り上げることで、沖合漁業や遠洋漁業、加工、流通を1つの素材で扱える工夫があります。

106ページの「まとめる」場面では、小単元の学習問題が再提示され、学習問題に立ち返って考察できるようになっています。文章、討論、説明などの言語活動を軸にした様々な表現活動が提示されています。学習上必要なキーワードの「ことば」の一覧があり、学習のまとめや自分の考えを説明する言語活動に活用できるようになっています。「まとめる」場面にQRコンテンツが用意されていて、ワークシートが利用でき、さらに端末を活用してまとめることができるようになっています。「生かす」場面では、学習したことを基に、よりよい社会のためにできることを考えられるような工夫があります。特に新学習指導要領では、第1次産業の学習では6次産業化を扱うことになっていますが、122ページの「生かす」で、新たな食料生産の取組として学習できるようになっています。社会的な見方、考え方は、アニメキャラクターのイラストの種類によって一

目で分かるようになっていきます。また、児童の思考を促すように、見るべき視点が短い言葉で示され、資料と関連づけがしやすくなっています。

続いて、教育出版です。88ページでは、子どもの吹き出しを使い、資料から分かることを示し、学習問題につながるよう工夫されています。「次につなげよう」より、次時以降に行う学習が示されていて、見通しを持ちやすくしています。子どものノート例が載せてあり、一人で自力解決がしやすく工夫されています。資料がとても豊富です。「学びのてびき」により、学習活動がより分かりやすくなるよう工夫しています。また、学び方の方法が身に付くようにしています。北海道のサンマ漁を取り上げ、鮮度よく流通する工夫等を取り上げています。

102、103ページの「まとめる」場面では、カードを活用した表現活動、ほかの単位では違う表現活動等も紹介されていて、学習内容に応じた方法がたくさん紹介されています。「まとめる」場面に学習問題が再提示されており、学習問題に立ち返って考察できるようになっています。「まとめる」場面にQRコンテンツが用意されていて、ワークシートが利用できます。単元に出てくる言葉が「キーワードをふりかえろう」として提示されています。社会で活躍する多様な人物のコーナーが準備されています。「つなげる」の場面では、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする意識を高められるような学習活動を例示しています。3つの社会的な見方、考え方のヒントをキャラクターの吹き出しで分かりやすく表記しています。また、「もっと知りたい」で植林と養殖漁業の関係をとり上げ、SDGsにつながるエピソードも取り上げています。

続いて、日本文教出版です。92ページをお開きください。ページごとに下部欄にインデックスを設定しており、身に付けるべき力や学習の流れが分かりやすくなっています。見開きごとに問題を解決できるようにレイアウトを工夫しているため、問題を発見、追究、解決という流れを把握しやすく、課題解決に向けて取り組みやすいページ構成となっています。97ページのコラムにより、視野を広げる工夫がされています。銚子漁港を取り上げ、沖合漁業の様子から学ぶ工夫があります。

105ページの「まとめる」場面では、児童の発表例が示され、参考になるようにしてあります。ほかの単元で、例えば223ページでは、子どものノート例なども載せられています。QRコンテンツが用意されていて、ワークシートをダウンロードすると、ワークシートの中に単元の学習問題が記載されていて、学習問題に立ち返って考察できるようになっています。また、まとめた内容とSDGsの関連について、より思考を深められるようにQRコンテンツが用意されています。児童の話し合い活動の場面を多く載せ、話し合いで考えを深めることができるよう工夫しています。134ページの「未来につなげる」の場面では、SDGsとの観点から、自らの生活と結びつけて考えることができるような工夫がされています。社会的な見方、考え方の視点を3つに分けて表示しています。

続いて、資料です。3社とも写真資料や地図資料等が充実していて、学び方が示されていて、

大変学びやすい構成となっています。東京書籍は、学習問題をつくる場面では、イラストで児童の発言を補助し、予想される反応例やまなびのポイント、他教科との関わりが明記されています。QRコードでは、児童が自力で問題解決ができるよう導入動画、インタビュー動画、学び方説明動画等様々なデジタルコンテンツが準備されています。単元によっては折り込み資料等があり、資料から学習内容に迫っていきやすいようになっています。前の学年での学習内容と、取り組む学年の学習内容が一目で分かる資料があります。学習計画を立てる上で、調べることや調べ方、まとめ方についての資料が一目で分かるように整理されています。

教育出版は、学習問題をつくる場面では、イラストを用いて予想される反応例が提示され、まなびのポイントが明記され、重要語句がキーワードとして取り上げられています。平易な文章表現が意識された語句解説が載せられています。QRコードでは、児童が自力で追究しやすい、より精緻な資料や動画等のデジタルコンテンツが準備されています。単元によっては折り込み資料があり、資料から学習内容に迫っていきやすいようになっています。前の学年での学習内容が一目で分かる資料があります。白黒写真のカラー化等、読み取りやすい資料作りを行っています。

日本文教出版は、学習問題をつくる場面では、イラストを用いて予想される反応例が提示されていて、コラムが随所にあり、関心が深まる工夫がされています。重要語句を検索バーで表記し、自ら調べるように促す工夫があります。QRコードでは、動画やシミュレーション等の活用しやすいデジタルコンテンツが準備されています。折れ線グラフと棒グラフが合わせられている資料などは、資料を要素に分けて表示することができるよう工夫されています。単元によっては折り込み資料があり、資料から学習内容に迫っていきやすいようになっています。該当学年の学習内容の見通しが分かる資料があります。1時間ごとに問題解決的な学習を展開できるよう図版や必要な資料を提示しています。

次に、表記・表現です。東京書籍は、該当学年以上で習う漢字は見開きの本文の初めに出てきた漢字にルビが振られています。用語については、キーワードとなる用語を「ことば」として取り上げ、詳しく解説されており、「まとめる」の段階では「ことば」を活用しながら調べたことを整理できるようになっています。

教育出版は、該当学年以上で習う漢字を見開きの本文の初めに出てきた漢字にルビが振られています。用語については、キーワードとなる用語を「キーワード」として取り上げ、詳しく解説されており、「まとめる」の段階では「キーワード」を振り返ることができるよう工夫されています。

日本文教出版は、該当学年以上で習う漢字は全ての漢字にルビが振られています。用語については、学習にとって大切な用語を「キーワード」として取り上げ、詳しく解説されています。「〇〇さんのノート」等、調べたことを整理する書き方の例が記載されており、児童が自ら文章を書きながらまとめることができるような工夫があります。

総括です。東京書籍は、5年生の下巻末資料と6年生の政治・国際編96ページでSDGsについて取り上げ、学びに活用できるようにしています。防災・安全教育に活用できる教材を各学年に掲載し、身近な暮らしや政治の働きなど、様々な角度から防災に対する知識を深め、防災への意識を育てることができるようにしています。6年生の政治・国際編110ページ「中学校に向けて」では、中学校の社会科への期待について意見文を書くことで、学習した内容の振り返りと学習意欲を高めることができるようにしています。

教育出版は、各学年に「SDGsとつなげて考えよう」のページがあり、これからの地域や社会、暮らしの在り方について考えることができるようにしています。教科の学習内容と関わらせながら、防災について理解し、考えられる教材を各学年に設けています。6年生の巻末、290ページには「6年生の学習を振り返ろう」が載っており、地理、歴史、公民など中学校になったら3つの分野に分かれることが記載されて、また選挙の投票の写真を掲載し、18歳から選挙権のあることを意識できるようにしています。

日本文教出版は、「考えよう！SDGs」のコーナーや134ページの特設ページ「未来につなげる～わたしたちのSDGs～」のように、児童が自分で追究を進められるようにし、巻末にある目標シールを貼ることで自分の考えを深められるようにしています。防災・安全については、一人ひとりが自分の安全を確保するための知識や能力が向上するよう学習場面が設けられています。6年生の巻末、278ページ「中学校へ向かって」では、地理、歴史、公民など中学校になったら3つの分野に分かれることが記載され、中学生になる自分へのメッセージを書くことで、学習意欲を高めることができるようにしています。

吉田教育長 ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて選定委員の回答を求めます。

渡辺委員。

渡辺委員 選定委員会としては、どの教科書を推薦するのでしょうか。

駒場選定委員会副委員長 選定委員会では、調査報告書及び学校における教科書の調査研究報告、さらには法定教科書展示会会場におきまして来場者の皆様から提出いただいたご意見なども参考にしながら協議を行いました。協議終了後、選定委員16名が3種類の教科書発行者について評価をそれぞれ5段階で記載し、無記名で投票いたしました。80点が満点でございます。

その結果でございますが、2番、東京書籍75点、17番、教育出版60点、116番、日本文教出版55点でございます。

本選定委員会といたしましては、点数の高かった順に、75点の東京書籍、60点の教育出版、55点の日本文教出版を推薦いたします。

渡辺委員 ありがとうございます。

吉田教育長 よろしいですか。

渡辺委員 はい。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 選定委員会ではどのような話題が出たのでしょうか。

佐々木選定委員 選定委員会では、大きく2つの話題が出ました。

1点目は、問題解決的な学習を促す工夫として、各社それぞれ学習問題をつくる場面、調べる場面、まとめる場面が設定されており、それらが意識された構成になっているということ。

2点目は、まとめる場面の工夫としては各社に違いがあり、まとめの文に使う言葉が示されていたり、話型が示されていたり、発表例が載っていたりするというような内容です。

吉田教育長 関連してでもいいですが、他にございますでしょうか。

山口委員。

山口委員 学校の調査報告書では、どの教科書会社の推薦が多かったのか。また、その主な理由について教えてください。

佐々木選定委員 学校からの推薦では、東京書籍を推薦する学校が最も多く28票、次いで教育出版が10票、日本文教出版が5票という結果でした。

推薦理由としましては、東京書籍ではグラフ、写真、イラストなど資料が豊富で活用しやすく、「つかむ、調べる、まとめる」の流れが分かりやすく、児童の思考の流れに沿っているということがありました。

教育出版では、資料が大きく、見やすく、情報量が適切である。話合いの仕方が示されており、友達の意見の取り上げ方も具体的で分かりやすい。

日本文教出版では、たくさんの資料があり、調べ学習がしやすい等の意見がございました。

吉田教育長 よろしいですか。

山口委員 はい。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

東委員。

東委員 社会科では、今やはり現代的な課題で、ご説明の中にもあったのですが、SDGs、防災、自然災害などの現代的な問題を学ぶと思うのですが、それぞれの教科書会社でどんな取り上げられ方をしているのか、比較をした視点で説明していただければと思います。

佐々木選定委員 まず、今日的な課題、例えば防災教育などは、今回の学習指導要領の中では特に求められているもので、社会科がそれをある程度担う役割を果たしているわけです。4年生に新しい単元が1つできました。こちらについては、4年生の教科書を見ていただけると載っています。併せて5年生の国土の学習のところに、日本全体の自然災害を使う、国土と関連をさせるということでの自然災害、防災についての内容が入ってきています。

基本的には、各社ともとても良い作りになっていまして、あまり大きな差はありません。取扱いはどの教科書会社でも、現代的な問題についてはよくできるようにはなっているかと思います。

東委員 SDGs などをお聞きしましたが、1点だけ、日本文教出版はシールがいっぱいあって、これがSDGsを学ぶ上でどうなのですかね、文教出版はシールを貼るように、東京書籍は見開きで広く全体が見れるようになっているのですが、選定委員会で何か評価はありましたか。

佐々木選定委員 特に選定委員会の中では、話題は出ませんでした。ただ、SDGsにつきまして、どこの会社も同じように扱ってはいるのですが、若干日本文教出版は、まとめの段階でSDGsに絡ませてまとめさせる等、いろいろ少し工夫があるなというのは選定委員の中では話題としてはありました。

東委員 ありがとうございました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 選定委員会には、1号委員として保護者がいらっしゃいます。どのような意見が出ましたでしょうか。

駒場選定委員会副委員長 1号委員からは、学習には知識を自分で得たり吸収したりするインプットの活動、それから自ら物事を発信するというアウトプットの活動があるけれども、これからの学習ではやはりアウトプットの活動の重要性が、より高まってくるのではないかとと思われる、各社ともその点は大変工夫されている、との意見が出されました。

吉田教育長 よろしいですか。

荒木委員 ありがとうございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 それでは、協議を行います。

選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。

まず、調査の観点1、内容についてご意見はございますか。

山口委員。

山口委員 まず、知識及び技能が習得されるための工夫として、東京書籍についてですけれども、まず社会生活で理解を深める工夫として「つかむ」というふうに学習目標が明確に示されてよいと思いました。

情報を適切に調べてまとめる技能を育成する工夫として、「調べる」「まとめる」で学習活動はどういうふうにしていくかということも分かりやすく示されていると思いました。

思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫として、思考ツールの活用についてですけれども、東京書籍では「まなび方コーナー」というもので、オンラインミーティングの仕方とかフ

ローチャートのまとめ方などの記載がありました。

学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫として、学習したことを社会生活に生かすにはどうしたらいいかということですが、東京書籍では「ひろげる」、教育出版では「次になげよう」ということで、社会生活に生かそうとする意識を高める工夫があるように思いました。

学習問題を追究、解決する活動の充実を図るための工夫として、東京書籍と教育出版ともに「まとめる」という対話的な学習を促しているように読み取れました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 どの教科書も写真や絵が豊富で、子どもたちが理解するのに大きな助けとなると思いました。

東京書籍は、「つかむ」「調べる」「まとめる」「生かす」が、大きくはっきりと左上に示されていることで、学習の流れが分かりやすく、課題を追究したり解決したりするような学習ができるようになっていると思いました。5年生は上下に、6年生は政治・国際編と歴史編とに分かれ、軽くてよいと思いました。

教育出版は、社会的な見方、考え方を働かせた学びができるように、子どもたちのキャラクターの吹き出しが多くあると感じました。

日本文教出版は、3年生の36から39ページの姫路市の土地利用図、宇宙から見た姫路市など、比較すると面白く、子どもたちが興味を持って学べるような紙面の工夫が見られました。

吉田教育長 他にございますか。

渡辺委員。

渡辺委員 荒木委員と同様なのですが、やはり東京書籍は分冊されているということで、子どもたちにとっても、持ち帰るのに、ほかの教科書も、だんだん教科書も重くなってくるので、とてもよいなと感じました。また、この分け方も政治・国際と歴史ということで、歴史は歴史だけで学ぶというような感覚を子どもたちに与えられるので良いと感じました。

同じくやはり教育出版のインデックス、これは今子どもたちが何を学ぶべきなのか、どうすればいいのかということが分かりやすく良いと感じました。

また、日本文教出版は、レイアウトが非常に分かりやすく、特に下の部分の色づけですが、今自分たちは何を学んでいるかということが分かりやすく色分けできていて、写真と図の配置などもすっきりしていて、子どもたちにとって分かりやすいなと感じました。

吉田教育長 他にございますか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 私もほかの委員さんと同様の意見、同様の考えを持ったのですが、学習過程については、東京書籍が「つかむ」「調べる」「まとめる」で、学習過程が非常に明確だ

なと思いましたし、各ページが1時間で完結する形で構成されていて、他社も学習過程については大分捉えているのですけれども、この辺の使い方がきっと現場では定着しているのかなと感じました。

それから、教育出版では、資料が大きくて見やすいということがありましたので、捨て難いところがあるなと感じました。

吉田教育長 私から1点だけ、3、4年生の学習は、実際には越谷市や埼玉県の副読本、これを使って学習することになりますけれども、学校報告書にもございましたけれども、副読本の「わたしたちの越谷」、これについても「つかむ」「調べる」「まとめる」「生かす」で学習活動が進められるように編集されています。

他にございますでしょうか。

東委員。

東委員 私も感想なのですが、先ほど質問したSDGsの取り上げ方というのは各社特徴があり、東京書籍は3、4年生というより6年生で集中的に出てくる感じなのです。教科書の使い方になるので、どれがいいとは言い切れないなと思いながらお聞きしていました。

確かに日本文教出版はシール貼りながら、まとめながらSDGsを学んでいけるという特徴があって、これは先生方がどう使っていくのか、子どもたちがどうやって学ぶのかによって、差は出てくるので、どちらがいいとは言えないなと思いました。

東京書籍は、やはり分冊になっていて、これ軽くて持ちやすいですね。歴史だけ別にしてあるので、ただ目次でしっかりとこういう順番で学ぶと示してあるので、特に問題はないし、この辺は持ちやすさ等を考えたら、良い工夫だなと思いました。

吉田教育長 SDGsの扱いについては、何か他にございますか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 それでは、ないようですので、次に調査の観点2、3、4については一括して協議したいと思います。

ご意見等はございますか。

山口委員。

山口委員 まず、資料についてですけれども、二次元コードから見ることのできる資料で、東京書籍ではインタビューや「まとめるワークシート」の閲覧したり戻したりができるようになっていて、いいと思いました。

また、ユニバーサル化に向けては、UDフォントを使い、東委員さんがおっしゃったことにつながりますけれども、分冊が適切になされていて軽量化されているところは良いと思いました。

総括ですけれども、SDGsと防災について、東京書籍は5年生の巻末と6年生の政治・国際編でSDGsを扱われているのと、防災については各学年に単元があるのですけれども、特に優

れているなと思ったのが、東京書籍の5年生の下の95ページに、国交省の平田さんのお話がQRコンテンツになっていて、砂防ダムのあるないが実験されていて、土砂災害の恐ろしさとか、砂防ダムの有効性というのが非常に分かりやすく、すごく良くできたテレビ番組のようにきちんとまとめられていて、特にこれが僕の中の記憶に残り、良いと思いました。

吉田教育長 東委員さんから重さについて話がありましたので、重さについては私から情報提供させていただきます。教科用図書の重さについては、東書だけが5、6年生で分冊になっています。

1冊になっているものでは、一番重いもので584グラム、3年生の教科書で比べると273グラムから353グラムの間で、東書が273グラムになっています。

また、山口委員さんからQRコンテンツについて話がありました。

他に何かございますでしょうか。関連してでも構いません。

野口委員。

野口教育長職務代理者 今までも意見が出ていますけれども、分冊になっているということ、特に6年生の歴史編と政治・国際編については、中学校への橋渡しを考えると、このほうが分かりやすいのかなと、現場でもそう捉えているのかなと私も思いました。

吉田教育長 他にございますか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 ご意見出尽くしたようです。よろしいですか。

〔「はい」と答える者あり〕

吉田教育長 他に、他の観点で協議したい内容等はございますか。これもよろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ、これより社会の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 それでは、順次投票をお願いいたします。

〔順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはございませんか。

投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、荒木委員、それから東委員を指名いたします。

〔立会人立会いの上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告いたします。

投票結果については、発行者の番号順に、発行者番号、発行者名、評価点の合計点を読み上げます。

2 番	東京書籍	3 0 点
1 7 番	教育出版	2 3 点
1 1 6 番	日本文教出版	2 0 点

以上のとおり、社会の教科用図書は、2 番、東京書籍を採択することに決定しました。

次に、地図の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 地図の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

佐々木選定委員 地図帳です。地図帳につきましては、2 社でございます。

まず、2 社とも色使いが分かりやすく、地図帳の使い方などの記述がとても工夫されていて、とてもよい構成でした。

内容です。東京書籍は、最初のページと最後のページに世界全図があり、ほぼ全ての国が記載されていて、世界を体感できるように工夫されています。最後の世界全図には、国旗も記載されています。7 ページから14 ページを使い、地図帳についての基本的なルールや活用方法について、人物のキャラクターを用いて、吹き出しを使って分かりやすく丁寧に説明されています。

7、8 ページは、3 年生の最初の単元の学区や市のフィールドワークを行う学習を意識して作られています。学習指導要領では、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など、市の主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目してと記載されていて、その中の道路や公共施設、神社やお寺等が使われた位置図を平面地図にして、流れが分かりやすく説明されています。

13 ページの索引では、索引の見方が大きく説明されていて、初めて使う場合に困らないようになっています。また、大きく地図記号が描かれていて、大きな文字で表すことで基本的な知識が早い段階で習得できるように工夫されています。例えば18 ページ、随所に「ホップ↑ステップ↑マップでジャンプ↑」があり、地図や主題図の何を見ればいいのか、何を考えればいいのか、明確に分かるように工夫されています。また、30 ページのように、書き込みができる箇所があります。気候や産業、世界との関わり等の社会的事象について、地図や写真、イラスト等を用いてつかむ視点が分かりやすくなっています。

世界のページでは、例えば62ページのように動物や料理など身近に感じる写真が掲載されていて、地図中に該当する動物のイラストがあることから、地図に親しみが持てる工夫もされています。また、世界や日本の山の写真や、季節に応じたキャラクターのイラスト、これは69ページになりますが、地図帳への親しみを感じ、学習意欲を高める工夫となっています。

帝国書院は、最初のページの世界全図にて、日本との関わりの深い国を中心に記載されていて、裏表紙には全ての国の名前が記載され、国旗も載せられていて、この2つの世界全図を使い方を分けて分かりやすく世界を体感できるようになっています。7ページから20ページを使い、地図の基本的なルール、学校の周りの地図など簡略化した地図があって、分かりやすく説明されています。

第3学年の最初の単元の学区や市の学習では、まず7、8ページで学校の周辺から真上から見た地図へ移行し、9、10ページで市の鉄道、道路、古墳、市役所等の公共施設を航空写真から平面図に移行する学習が説明されていて、丁寧に学習が進められるようになっています。

17から19ページで、索引の使い方が丁寧に説明されています。19ページの表記により、地図帳を活用して町などを探すことが容易になるよう工夫されています。色に着目することも説明があります。

随所に「地図マスターへの道」が出てきて、地図から分かるポイントを導けるような工夫がされています。また、何年生で学習するのも記載されていて、各学年に応じた活用が期待できます。21ページから30ページは、160万分の1縮尺で統一された地図が載せられていますが、載せられている情報量が減らしてあり、中学年、3、4年生での活用を考えた構成になっています。このページのマスターは、3、4年生を意識しています。また、このページをコピーして貼り合わせると、1枚の日本全図を作ることができます。

112ページの統計資料には、野菜が分かりやすく絵で示され、この絵が地図の中に表記されていて、主にどの県で多く作られているのかも分かるようになっています。これは3年のスーパーマーケットの学習での活用ができます。

125ページには、SDGs についての特設ページがあり、世界地図の中にはイラスト、ページ下部には各地で行われているSDGs の取組が紹介されていることから、社会問題を認識し、解決する方法を考える意欲が持てるように工夫されています。その他のページにもSDGs のマークがあり、社会的な見方、考え方の育成につながる工夫があります。

資料についてです。東京書籍は、15ページの日本とその周りのページで、東西南北の島の写真が載っていて、イメージを持てるよう工夫されています。33、45ページでは、古都である京都、奈良の仏閣や、首都東京の高層ビル群などの写真が挿入されており、イメージしやすいようになっています。60、62ページの世界のページでは、動物や食べ物の紹介があり、興味が持てるよう工夫されています。

資料のページでは、読み取らせたい資料ごとの主題図が大きく示されていて、分かりやすくなっています。また、巻末の折り込みページには、自然災害をテーマに地図、写真、本文と書かれていて、防災・減災について意識を高めることができるようになっています。6年生の歴史でも地図を活用できるように、77ページで特に世界との関わりを中心とする歴史のページを設け、偉人の絵もあるため、多面的に社会を学べるようになっています。QRコードにアクセスすると、クイズや動画等のコンテンツが用意されていて、地図の基礎を学ぶことができるようになっています。

帝国書院は、31、32ページで、日本の領土とその周りのページで、東西南北の島の写真が掲載されていて、イメージしやすくなるよう工夫されています。51から54ページ、67ページでは、古都である京都、奈良や首都東京は詳しい地図が挿入され、学習しやすいように工夫されています。世界のページでは、例えば90ページのように地域ごとに世界の子どもたち、世界のSDGsが写真つきで掲載されていて、興味やイメージを持ち、学びやすいように工夫されています。

資料のページは、大きな地図が使用されていることから、分かりやすく学習できるようになっています。99から104ページの自然、自然災害、農業のページでは、写真に加え、イラストや模式図を大きく提示することで、例えば砂防ダム等身近な地域にないものが簡単にイメージできるように工夫されています。さらに、6年生の歴史でも活用できるよう、資料のページ以外に55ページの近畿地方や69ページの江戸のページで、古い街道の地図や江戸の様子などが載せられています。QRコードにアクセスすると、アニメーションによる解説やクイズ、動画等のコンテンツが豊富にそろっていて、活用しやすくなっています。

表記・表現です。東京書籍につきましては、3年生以降に学習する漢字についてはルビが振られていて、読めない漢字がないよう配慮されています。文章の改行については、区切りのよいところで実施されており、読みやすく工夫されています。また、各地方や世界の地域の中で、注目すべきポイントを5人のキャラクターが吹き出しで問いかけをすることによって、興味関心が持てるように工夫されています。各県の代表的な農産物や水産物を多くの絵や写真で載せ、3年生のスーパーマーケットの学習の他地域とのつながりや、5年の産業学習で活用しやすくされています。

帝国書院は、3年生以降に学習する漢字についてはルビが振られていて、読めない漢字がないよう配慮されています。160万分の1の地図を用いて日本列島を大観できる工夫があります。この地図は、載せてある情報が、先ほども言いましたが、重点化されていますので、3、4年生の児童が使用しやすくなっていて、同じ縮尺にすることで都道府県の大きさの比較ができるようになっています。各地方のポイントや学ぶべき内容については鳥のキャラクター、調べたりする内容については2人の人間のキャラクターを使用していて、分かりやすく工夫されています。

総括です。東京書籍は、日常生活に関わる食や動物、工業製品に関するイラストが地図の至る

ところに掲載されているので、親しみを持ちやすくしています。また、遺跡や古戦場、世界遺産なども地図中に明記されているので、6年生の歴史や総合的な学習の時間での活用も期待できます。「いろいろな料理」の写真から、家庭科や食育へのつながりも持てる表記となっています。

帝国書院は、「地図マスターへの道にちょうせんしよう！」で、ゲーム性を持たせることで学びの広がりへの工夫があります。「世界と地球儀」のページでは、同じ学齢の児童が実践している写真を掲載していることから親しみが持ちやすく、工夫されています。中学校地理への接続も意識した表記となっています。SDGsの特集が多く、総合的な学習の時間との関連も期待できます。

吉田教育長 ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて選定委員の回答を求めます。

野口委員。

野口教育長職務代理者 選定委員会としてどの教科書を推薦するのかお話しいただけますか。

駒場選定委員会副委員長 選定委員会では、調査報告書、また学校における教科書の調査研究報告並びに法定教科書展示会会場におきまして来場者の皆様から提出いただいたご意見なども参考にしつつ協議を行いました。協議終了後、選定委員16名が2種類の教科書発行者につきまして評価をそれぞれ5段階で記載し、無記名で投票いたしました。80点が満点となります。

その結果でございますが、2番、東京書籍59点、46番、帝国書院76点でございました。

本選定委員会といたしましては、点数の高かった順に、76点の帝国書院、59点の東京書籍を推薦いたします。

吉田教育長 よろしいですか。

野口教育長職務代理者 ありがとうございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 選定委員会では、どのような話題が出ましたのでしょうか。

佐々木選定委員 選定委員会では、大きく2つの話題が出ました。

1点目は、地図帳を日常に生かす工夫について、各社3年生からの活用を意識しており、活用の仕方が詳しく載っているということ。

2点目は、ユニバーサルデザインの観点からの特徴について、各社考慮されているが、情報を焦点化する、豊富な情報を載せるという差があるということの話が出ました。

渡辺委員 ありがとうございます。

吉田教育長 他に、よろしいでしょうか。

山口委員。

山口委員 学校の調査報告書では、どの教科書会社の推薦が多かったのか。また、その主な理由について教えてください。

佐々木選定委員 学校からの推薦では、帝国書院を推薦する学校が最も多く29票、次いで東京書籍が9票という結果でした。

推薦の理由としましては、東京書籍では、資料が豊富で、役に立つ。「地図のきまり」が漫画で示されていて分かりやすい。

帝国書院では、情報量がちょうどよく、全体的に見やすい。歴史や気候など、他教科との関連が分かりやすくまとめられている等の意見がございました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 教科書の学習と地図帳を結びつけて学習できるような工夫がありますでしょうか。また、学校ではふだんのように地図帳を活用しているのか教えていただけますでしょうか。

佐々木選定委員 例えば3年生ではスーパーマーケットの学習で他地域とどうつながっているかで、産地などの県を調べることがあります。そういうときに、実際に地図帳に丸をつけていき、書き込んでいくと、どんどんいろいろな県と自分たちの地域が、関わりがあるということを学んでいく使い方や、その後、5年生で今度は日本の産業の学習になったときに、この地域はリンゴの栽培が盛んだったねとつながっていったりと、地図帳というのは主にこのように活用されているかと思います。

また、歴史の学習でも、江戸時代の学習などで古街道の学習に至ったときに、古街道はどこを通っているのだろうといったような場面で、実際には活用ができますし、今度の新学習指導要領で外国とのつながりを意識した内容が入ってきましたので、そういったものに活用するなどということもできるようには、各社工夫されているかと思います。

吉田教育長 よろしいですか。

荒木委員 はい。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

東委員。

東委員 選定委員会には保護者の方が1号委員でいると思うのですが、この保護者の方からはどんな意見が出たのか紹介していただければと思います。

駒場選定委員会副委員長 1号委員からは、「地図マスター」など、子どもたちが楽しんで地図帳を活用できる工夫が見られる。かつては家庭に地図や地球儀があったけれども、今の時代でももっと地図や地図帳と触れ合う機会が持てるように、様々な学習媒体と関連づけて学習が進められると良い、という意見が出されました。

吉田教育長 よろしいでしょうか。

東委員 ありがとうございます。

吉田教育長 他にはございますか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。

まず、調査の観点1、内容についてご意見はございますか。

山口委員。

山口委員 まず、内容ですけれども、知識及び技能が習得されるようにするための工夫ですけれども、帝国書院は、地図という独特な世界が僕はあり得ると思っているのですけれども、冒頭に地図の基本ルールが丁寧に説明されていて、地図的な見方、考え方への導入がすごく良いと思いました。

また、社会的事象の見方、考え方を働かせるための工夫として、帝国書院では「地図マスターへの道」というもので、少しずつ社会への興味関心に工夫があるように思いました。

学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫として、巻末の2ページに特集がある以外に、世界でのSDGsが紹介されていて、これはSDGsというものの自体が国際的な問題であるので、よりそれについてイメージが届きやすいと思いました。

地図、資料の特徴ですけれども、帝国書院に関して、統計等の結果がいろいろ出されているのですけれども、出展が明示されているというのは、やはり出展に対しての関心を常に持つように、資料を見せられるような工夫かなと思いました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

私からは、選定委員からもありましたけれども、例えば東書は7ページ、帝国は9ページで同じように扱っているわけですが、両方ページをめくっていただけて、少しじっくり見ていただきたいのです。割いているページも違うのですけれども、これはほんの一例ですけれども、報告書に見られるような、例えば見やすい、分かりやすい、あるいは学習しやすい、導入しやすいなどの観点から、児童の思考に沿ってどのように工夫されているかで比較してみると、その違いが見えてくるように思います。どちらの地図帳も、私、手元に置きたいなと思っているのですけれども、違いが見えてくるかなと思いました。

また、学習指導要領で自然災害について様々な対策を進めていることへの理解や、自然条件との関連、これを考えることなどについて求めています。帝国では49ページの左下に、ヘルメットに十字の印があります。主な広域防災拠点、それから水と書いてあるのですけれども、主な水道水、取水場で、50ページの右上に琵琶湖疏水、あるいは京都平等院が、丸をつけて載せられているのいいのかなと思います。

また、68ページ右下に主な避難場所が載せてあります。非常口はこちらですよみたいなマークが右下に載っているのですが、結構たくさん載せられていて、一目瞭然で、いろいろ災害が起き

た場合の避難場所等がこうして各地に設けられているのだということが見られるかと思います。

それから、101ページは、繰り返される津波と先人たちが残した教訓で、地形を見ながら、どうしてこういうところで津波が非常に高くなってくるのかというのが分かりやすく表記されているかなと思います。また、こういう碑がありますよと載せてある。特に自然条件との関わりで、自然災害と防災について取り上げたりするなどして、防災への意識を高める工夫がされているかと思っています。

他にございますでしょうか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 それでは、協議の2、3、4として資料から表記・表現、総括について、一括して協議したいと思います。

ご意見等はございますか。

山口委員。

山口委員 まず、地図や資料の種類、大きさですけれども、先ほど少し統計の出版について話しましたが、SDGsについても適所に関連資料があって、概念に親しむような工夫がされていると思いました。

ユニバーサルデザイン化に向けた工夫に関しては、各社ともUDフォントの使用はされているのですけれども、帝国書院に関しては平野を濃い黄緑として、違いを明瞭化しているというところは非常に分かりやすいと思いました。

総括ですけれども、系統性、日常生活とのつながり、他教科との関連、小中の連携など、子どもの学びの広がり意識させる工夫として、先ほど来言及されていますけれども、「地図マスターへの道」はゲーム性によって学びの広がり促していること。それから、「集まれ世界の子どもたち」では、外国での同世代の子たちの紹介で、世界へ目を向けるための工夫がされていると思いました。世界のSDGsは各国の実践が紹介されており、身近に考える工夫があると思いました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 私が見たところ、東京書籍のイラスト等については、今の子どもたちに合うなと感じてはいるのです。教科書も、社会科教科書との関連でも東京書籍のよさもあるなと感じてはいます。ただ、地図を見ますと、例えば帝国では72ページに越谷市が載っていて、大型ショッピングセンターも掲載されていて、こういった施設があることによって越谷から都心への広がり方も分かりやすいのかなということを感じました。また、これと同じようなところが、大阪でも49、50ページで、やはり大都市から広がりが分かりやすくなっているのかなとも思いました。

それから、例えば55ページの昔の街道が載っている、つまり今との違いも分かりますし、地域

を歴史の観点から見直すことにもつながるのかなと思います。それと同じようなところが、例えば69ページの昔の江戸川の地図、品川は昔海だったというお話を聞きますと、このようなことでも、何か興味関心が高められるのかなと思いました。こういった地図は、小学校だけではなくて中学校でも使えるものになっているのかな、あるいは自宅に置いておけば、ずっとその先まで使えるような工夫があるな、ということを感じました。

吉田教育長 大体ご意見等出されたようですので、よろしいでしょうかね。

東委員。

東委員 東京書籍は歴史の年表が2分割されているというか、77ページから4ページにわたって文字も大きいので、歴史の勉強をしながら使うにはすごくいいなと思ったのです。帝国書院は1ページにコンパクトにまとめてあるので、少し分かりづらいなとは思いました。

ただ、帝国書院は内容的には、防災関係がすごく見やすく写真も入っていて、これはメリットですね。自然災害と防災のところが、明らかに見やすいです。

あとは慣れなのかと思うのですが、これは内容ではなくて表記についてはこの後ですかね。

吉田教育長 いいです。

東委員 表記について、帝国書院が見やすいと思うのです。東京書籍は文字が重なっている感じがあって、何ページか比較してみたのですが、文字の大きさなのか情報量なのか、何だか分からないのですけれども、東京書籍は見づらいなという、これは慣れの問題かもしれませんが、率直な感想でそう思いました。

吉田教育長 他に。

渡辺委員。

渡辺委員 私からも感想になるのですが、やはり発達段階の関係からいいますと、帝国書院の、初めは7ページから、斜め上から見たら、この周りを真上から見て、そして地図で表すというふうに、とても分かりやすく、小学校3年生の学習、初めて地図を使うにあたってはとても丁寧に説明してあるなと思いました。

一方、東京書籍も、例えば30ページの地図を見ながらの書き込みであるとか、非常に工夫されていて、途中でイラストを入れてみたりとか、キャラクターが入っていたりとか、先ほど野口委員さんもおっしゃっていましたが、今の子どもたちにとっては、もしかしたらこちらが地図として興味を引くのかなと感じました。

吉田教育長 大体よろしいでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 私は、選定委員さんのご説明や山口委員さんのご意見にもありましたように、帝国書院での「地図マスターへの道」が大変よいと思ひまして、「地図マスターへの道」の問題ができれば124ページにその番号を書き込んでいくという形で、子どもたち一人ひとりが意欲を持って取り組

むことができると思いました。主体的な学びの力を伸ばすことができると感じました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。よろしいですかね。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 この観点以外に、何かご協議したいことございますでしょうか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 他にはないようですので、これより地図の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 それでは、順次投票をお願いいたします。

〔順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはございませんか。

投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、野口委員、それから渡辺委員を指名いたします。

〔立会人立会いの上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告いたします。

投票結果については、発行者の番号順に、発行者番号、発行者名、評価点の合計点を読み上げます。

2 番	東京書籍	2 3 点
4 6 番	帝国書院	3 0 点

以上のとおり、地図の教科用図書は、46番、帝国書院を採択することに決しました。

次に、音楽の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 音楽の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

木下選定委員 内容についてです。まず、教育出版ですが、知識及び技能が習得できるようにするために「FUN!」を教科書づくりの根幹に据え、題材や教材配置の系統性を図っています。思考力、

判断力、表現力等を育成するために、音楽表現の工夫や聴き方のヒント、発問例を「まなびナビ」として示しています。5年生の26ページ、左下にコンパスのようなマークで「まなびナビ」マークがあります。「まなびナビ」は、子どもたちの見通しをしっかりとった学習をサポートします。中高学年では、「学び合う音楽」で音楽活動に協働して取り組めるように学び方の例を示しています。主体的、対話的で深い学びのための工夫の一つとなっています。また、そのページの右上「音楽のもと」というところは、子どもの気づきをメモできる欄になっており、思考力を高める工夫がされています。

次に、学びに向かう力、人間性等を涵養するために、音楽活動に協働して取り組めるよう学び方の例を示しており、主体的、創造的に取り組む楽しさを実感できるようになっています。教科書の巻頭のページでは、様々な分野で活躍する人のメッセージを掲載しています。

生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質、能力を育成するために、身の回りの音や鳴き声を見つける活動や、まねっこ遊びをするなど、発展的な活動が展開されています。情景を、歌詞に忠実な見開き写真で提示することで、イメージをしやすくしています。我が国の音楽と世界の音楽についての学習が多く展開されています。

次に、教育芸術社の内容についてです。知識及び技能が習得できるようにするために、「3つの学び」を教科書づくりの根幹に据え、「どのように学ぶか」を教材ごとに示しながら、題材や教材配置の系統性を図っています。例として、4年生の39ページ「ファランドール」ですが、思考力、判断力、表現力等を育成するために、音楽表現の工夫や聴き方のヒントを、青いマーク「見つける」「考える」「歌う」で示したり、キャラクターの吹き出しで示したりしています。ページの端には、旋律、音の重なりなど共通事項を記載しており、年間を通じて学習を進めやすい工夫がされています。40ページに教科書に児童が直接書き込めるページもあり、思いや意図を持って音楽活動ができるようになっています。

学びに向かう力、人間性等を涵養するために、「何を学ぶか」、「何ができるようになるか」について、各コーナーに具体的に示されており、子どもたちの主体的な活動を引き出し、思いや意図を持つ手だてとなっています。巻頭のページでは、演奏家の話や音楽と社会との関わり、音楽への探究心を掲載しています。

生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質、能力を育成するために、身の回りの音や鳴き声を見つける活動や、絵を見て音を生み出す活動なども取り入れられています。音楽と社会の関わりやテクノロジー、著作権などについて、社会との関わりを紹介しています。

次に、資料です。2社とも、本文と挿絵や写真、図などの関わりについて、学習効果を高めるために、二次元コードで学習に対応した資料にアクセスできるように配慮、工夫があり、主体的に学ぶことができます。ここで、歌唱共通教材、5年生の「こいのぼり」の両社を見てみたいと思います。教育出版の5年生の10、11ページ、教育芸術社の5年生の12、13ページをご覧ください。

い。教育出版社は、こいのぼりの大画面の写真があります。特徴としては、大画面の写真つきで楽曲へのイメージや思いが豊かに広がります。

次に、教育芸術社の「こいのぼり」ですが、歌詞の意味に寄り添った挿絵や写真を用意し、歌詞理解に役立ちます。小形写真やイラスト、どのように学ぶかの文章表記など、情報量がたくさんあります。

次に、表記・表現についてです。2社とも発達段階に応じた文章表記がされ、語尾は教育出版は「何々しよう」、教育芸術社は「何々しましょう」で統一しています。教育出版は、全体的に文章が端的で分かりやすくなっています。楽譜が学習内容のみ記載されていてシンプルです。教育出版4年生の52ページ「ラ・クンパルシータ」という合奏の楽譜を見ると、合奏譜の全ての欄にパートの楽器名が明確に記載されており、自分がどこを演奏するのかが分かりやすくなっています。また、それぞれの段の余白が広く、全体的に広く、また指番号も必要なところには全て記載されています。巻末には、音楽を表すいろいろな言葉として、音楽から感じる言葉を掲載し、学年が上がるにつれて音楽の語彙が増えるように工夫されています。低学年の鍵盤ハーモニカの学習ですが、2年生の22ページには、鍵盤ハーモニカの写真が実物大で印刷されており、児童が確認しやすくなっています。

次に、教育芸術社の表記・表現についてですが、例として、4年生の56ページ「茶色の小びん」をご覧ください。全体的に具体的な説明や解説の文が多くなっており、楽譜に必要な情報が全てしっかり記されていて、学習内容を子どもたちが繰り返し確認することができます。57ページの上には、「がくふマスター」というコーナーがありますが、記号や用語の表記は発達段階に応じて配置され、掲載されています。また、2年生の21ページの右側に、風船でドレミを縦に並べ、音の高い低いを視覚的に分かりやすく表す、このような工夫もしています。

次に、総括ですが、教育出版についてです。音楽を形づくる要素について、段階的に学習を進められるように、全学年で「音のスケッチ」というページを設けています。子どもたちの日常生活とのつながりに関しては、空き缶やペットボトルなどで音づくり、リコーダーを用いての挨拶、売り声や相撲の呼び出しなどの音楽を取り入れています。小中連携に関しては、歌唱における発声方法に関する記述が見られ、中学校での歌唱への連携を図っています。

教育芸術社については、活動ごとのマークを全学年で用いることで、各教材で何を学習するか明確にしています。子どもたちの生活とのつながりについては、挨拶や鳴き声を使う活動、ゲームの音楽や野外ライブ、リモートによる音楽、被災地での音楽などを取り入れています。小中の連携に関しては、段階的に発声方法を整える方法を示すために、「歌声ルーム」というコラムを設定しています。

吉田教育長 ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて、選定委員の回答を求めます。

山口委員。

山口委員 選定委員会として、どの教科書を推薦しますか。

佐々木選定委員長 選定委員会では、調査報告書、学校における教科書の調査研究報告や法定教科書展示会会場において来場者の皆様が提出した意見なども参考にしつつ協議を行い、協議終了後、選定委員16名全員が2種類の教科書発行者について評価をそれぞれ5段階で記載し、無記名で投票いたしました。80点が満点となります。

その結果でございますが、17番、教育出版67点、27番、教育芸術社73点。

本選定委員会といたしましては、点数の多かった順に、73点の教育芸術社、67点の教育出版を推薦いたします。

吉田教育長 よろしいですか。

他にございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 選定委員会では、どのような話題が出ましたでしょうか。

木下選定委員 選定委員会では、大きく2つの話題が出ました。

1つ目は、音楽が苦手でも楽しめる工夫として、各社豊富な資料がある。プロのアドバイスが掲載されていたり、動画での演奏の仕方を繰り返し見ることができたりするというような点でした。

2つ目は、登場する楽器に特徴があるかということだったのですけれども、各社差はなく、今までよりもさらに分かりやすく、情報量が多くなっているということが出ました。

渡辺委員 ありがとうございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 学校の調査報告書では、どの教科書会社の推薦が多かったのでしょうか。また、その主な理由について教えていただければと思います。

木下選定委員 学校からの推薦では、教育芸術社を推薦する学校が最も多く27票、次いで教育出版が18票という結果でした。

推薦理由といたしましては、教育出版では学習の流れが既習事項を生かした内容になっており、選曲もよく考えられている。写真が大きく、曲をイメージしやすいという理由です。

教育芸術社は、画像や絵から、どのように手や指を動かすのか、楽器をどのように演奏するのかが分かりやすくなっている。題材設定と教材の配置に工夫があって、系統的に知識や技能が習得できる、などの意見がありました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

東委員。

東委員 今、知識、技能の習得ということでお話しいただいて、ただ学習指導要領では、音楽に関しては表現以外に鑑賞という内容があって、この鑑賞する題材もたくさんこの教科書の中にはあったと思うのですが、鑑賞する際の視点というのはどんなふうに示されているのか、説明していただければと思います。

木下選定委員 鑑賞する際の視点ということなのですが、音楽の楽しさや美しさに触れるという観点から、教育出版社は世界の様々な地域の声や楽器、日本の伝統的な楽器などの鑑賞で、多様な文化に触れることを重視しています。また、体の動きを使って音楽を感じ取ることをしています。例えば教育出版3年生の34、35ページ「ユーモレスク」も、そのような体の動きを使って音楽を感じることをしていました。

教育芸術社では、聴く狙いを分かりやすく示し、聴き取って感じたことを友達と共有しやすくしています。例としては、3年生の38、39ページの「メヌエット」を見ていただけると、そういうところが分かると思います。さらに、郷土に伝わる音楽をはじめとして、多様な鑑賞教材を取り上げ、子どもたちが音楽文化の多様性を理解できるように配慮しています。

東委員 ありがとうございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 どの教科でも聞いているのですけれども、選定委員会では1号委員として保護者がいらっしゃいますけれども、どのような意見が出たのでしょうか、お聞かせください。

佐々木選定委員長 音楽の教科書というのは、ほかの教科と比べると、とても薄いというのが、まず出ました。ただ、実際見てみると、内容は豊富であるし、たくさんの楽譜や活動が載っているというような意見が出ました。

野口教育長職務代理者 ありがとうございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 教えていただきたいのですけれども、先ほど教育出版の2年生の22ページの鍵盤楽器、このイラストを見てすごく大きいなと思ったのですが、教育芸術社では何ページに相当しますか。

木下選定委員 1年生の38、39ページをご覧いただけると、「どんぐり　ぐりぐり」などで載っています。

吉田教育長 よろしいですか。

渡辺委員 はい、分かりました。ありがとうございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

選定資料の4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。

まず、調査の観点1、内容についてご意見はございますか。

荒木委員。

荒木委員 中学校の音楽の教科書では、全体的に、教育芸術社は生徒たちの作業を通した分かりやすさ、教育出版はより高い発展的な学び、という傾向が見られると感じましたが、今回の小学校の教科書では、どちらも活動内容が丁寧に示されていて分かりやすく、学びを深めることができるという印象を持ちました。音楽の授業については、かつては、先生によっては、熱意はあるけれども何をどのように教えればよいか分からないということがあったり、知識を覚えさせることに偏ってしまったり、演奏の際、ただ間違えずに音程を正しく歌ったり吹いたりできることをよしとしてしまったり、といったこともあったかもしれませんが、どちらの教科書にも音楽活動の楽しさを体験し、音楽的感受性を育み、豊かな情操を培うことができる様々な工夫が見られました。

教育出版は、前回のもと同様、1年生の鍵盤ハーモニカの導入、3年生のリコーダーの導入が段階的になっていて、子どもたちが自分の力で、一音ずつ確実に学んでいけるように工夫されていると感じました。3年生、40ページ「ふじ山」、4年生、10ページ「さくらさくら」、5年生、10ページ「こいのぼり」など、折り込みを使った大きく美しい写真があり、イメージを大きく膨らませることができると思いました。また、方位磁針のマークの「まなびナビ」の内容が充実していて、活動の幅が広がると思います。

4年、14から16ページでは、4拍子、3拍子、2拍子の指揮の動きを体験できるようになっていることもよいと思いました。拍子の感じ方は大切ですし、高学年、中学生の合唱の際、指揮者を募ることがあると思いますので、それまでの授業で皆が指揮を学び、経験しておくのも有意義なことと思うからです。

現在、当市で使用している教育芸術社は、今回の改訂で、前回のものとは比べ、明らかに改良されていると思いました。「考える」、「見つける」、「歌う」などのマークが加わり、吹き出しも表情豊かなキャラクターの吹き出しに変わりました。それらにより、具体的な活動が挙げられていて、何を学ぶのか、何ができるようになるのかが明示されています。しかも、その活動内容が、技能のみならず豊かな音楽性を身に付けるのに非常に効果的であると思いました。経験の浅い先生や、専門でない先生も使いやすくなったのではないかと思いますし、児童が自宅その他で自分で学習するときにもよいと思いました。鍵盤ハーモニカやリコーダーについても、全般的に工夫されています。

昔、昭和20年代の戦後の小中学校の音楽の教科書を見たことがありまして、教育芸術社は、歌唱・器楽・鑑賞は別々のように見えるけれど深い関連性を持っていて、音楽をいろいろな面から

味わいながら自然に音楽の本質を理解できるようにする、という編集方針でした。70年たった今でも、それが受け継がれていると感じ、今回の改訂によって、それが実際の授業において、より具現化されることになると思いました。

吉田教育長 専門的なご意見なので、私はよく口をはさめないですけども、私から1点だけ、系統的に知識や技能を習得できるようになっていると報告書でありましたので、何をどう言っているのかなと思ったのです。両社とも5、6年生の6ページのところです。教芸の教科書は、系統的に知識や技能を習得できるようになっているとありました。その点について、目次を見てみると、同じような題材で教材を繰り返して扱っているという、この点だけでも補充、深化が分かりやすくなっていると言えるかと思います。

例えば教芸の5、6年生の12ページ、両社とも12ページですが、同じ「歌声を響かせて心をつなげよう」の中で、5年生では「曲の特徴を生かして明るい歌声で歌いましょう」、6年生では「歌詞の情景を思い浮かべながら曲想にふさわしい歌声で歌いましょう」とあります。同様に5年生の34ページでは、「和音の響きの移り変わりを感じ取りながら歌いましょう」、6年生の32ページでは「曲想の移り変わりを味わいながら思いを込めて歌いましょう」となっていて、音楽で思いを伝えようとする深まりが感じられるようになる。こういったところから、系統的に知識や技能を習得できるようになっている、これまでの積み重ねが行かせるような工夫が見られる、あるいは指導しやすく児童にとっても分かりやすい、といった報告書の評価につながっているのかなと思いました。

他にございますでしょうか。

山口委員。

山口委員 感想になってしまうのですが、音楽というものの学びというのは、いろいろ音楽のルールを覚えたりとかして、みんなで音楽を楽しむということが主題としてあると思うのですが、音楽というのは開かれたものであるということに気づかせる工夫というのは大事なかなと思って、教育芸術社の例えば2年生の28ページ「みのまわりの音を声であらわして音楽をつくりましょう」という、自然に目を向ける工夫だとか、教育出版社の5年生の58ページ「ずれの音楽を楽しもう」という、普通の調和の取れた音楽とはまた違うようなものに対して目を向ける工夫というのが2社ともなされているところがいいなど、感想なのですが、感想なのだと思います。

吉田教育長 内容についてはよろしいでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 それでは、私も先ほどの鍵盤ハーモニカについて、1年生を両社比べてみたのですが、例えば教育出版では36、37ページに「ドレミの音であそぼう」があって、教育芸術社では38、39ページに「ドとソの音とともにだちになりましょう」があり、それぞれ一長一短があるのかなと見ました。教育出版では、ドレミだけではなくて鍵盤ハーモニカにドレミファ

ソラシドまで振ってあって、教育芸術社はドとソのみで重点的に見られるという要素もあるでしょうし、ほかの音を覚えられるという要素もあるでしょうし、一長一短があるのだな、それぞれ工夫されているのだなということが勉強になりました。

吉田教育長 他に内容についてございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 私も感想になるのですけれども、教育出版の1年生の70ページに、もう英語の歌が入ってきているのです。子どもたちも誰でも知っているような曲で、これをあえて英語でここに入ってきているというのは、割と先進的な取組だなと感じました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 それでは、調査の観点2から4についてですが、もうこれまでのご協議の中で出ているかと思えますけれども、これについては一括して協議することといたします。

ご意見等ございますでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 私は、先ほどご説明があった教育芸術社の5年生の「こいのぼり」のところですが、歌詞の少し古い言葉についても注釈を入れているということで、非常に指導がしやすいのではないかなと感じました。昔の古語といいますか、文語といいますか、古い言葉ですので、情景と併せて、絵と併せて、歌詞と併せて説明できるという良さがあるなと感じました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 日本の音楽に関連してなのですけれども、教育芸術社4年生の58ページから63ページでは、琴と日本の音階について丁寧に扱っていました。本市には、県内唯一の外にある能舞台があるという特徴がありまして、中学校で琴を学習しますので、いいのではないかなと感じました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。よろしいですか。

〔「はい」と答える者あり〕

吉田教育長 この観点以外に協議したいことはないですか。よろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 ないようですので、これより音楽の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 それでは、順次投票をお願いいたします。

〔順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはございませんか。

投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、山口委員、それから東委員を指名いたします。

〔立会人立会いの上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告いたします。

投票結果については、発行者の番号順に、発行者番号、発行者名、評価点の合計点を読み上げます。

17番	教育出版	26点
27番	教育芸術社	29点

以上のとおり、音楽の教科用図書は、27番、教育芸術社を採択することに決しました。

◎休憩の宣告

吉田教育長 それでは、午前中の審議はここまでとし、暫時休憩といたします。

次の国語の教科用図書については、13時35分から再開することといたします。

休憩 午後 0時23分

再開 午後 1時35分

◎開議の宣告

吉田教育長 休憩前に引き続き会議を始めます。

国語の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 国語の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

齋藤選定委員 1内容についてです。どの発行者も、伝え合いを高める工夫がよりなされていると感じたところです。

まず、東京書籍につきましては、言葉の特徴や使い方では、国語科で育む資質能力を「言葉の

力」として掲示し、図解しています。言葉を集め文中で使う練習を通して、語彙を広げるようにしています。情報の扱い方では、「情報のとびら」という小単元が「読むこと」と「書くこと」の2つの単元の間に設定され、単元配列の工夫がされています。

「伝え合う力」を高めるために、各単元に「言葉の力」と主な言語活動、学習の流れが示され、見通しを持って学習に取り組むことができます。言語能力を育成するために、単元ごとの問いを解決していくことで言葉の力が身に付くように工夫されています。学習の手引きには、発言例や学習用語、ノート例が示されています。一例を示しますと、東京書籍6年生の122ページには、伝える、聞く、のポイントを示し、自分の考えに生かしていくことができるようにまとめられていて、そういう点が1年生から6年生の単元に、発達段階に応じてまとめられているような工夫がなされています。

続いて、主体的に学べるように、単元の導入ページで学習を見通し、身に付けるべき「言葉の力」と学習の流れを確認することができるようにしています。各単元の「ふり返る」では、学習内容を端的な言葉と図やイラストで振り返ることができます。「生かそう」のコーナーでは、他教科の学習や生活の中で「言葉の力」を活用することができる場面を示しています。

言語能力を育成するために、文法と語彙に特化した「言葉相談室」というコーナーを設け、つまずきやすい文法事項を理解したり、語彙を増やしたりすることができるようにしています。

読書教材を夏休みや冬休み前の単元として配置しています。有名作家と本との関わりを紹介し、関連する本と学年に合った図書を紹介しています。2年生以上の全ての学年で、年度当初に図書館を利用した学習が入っています。

続いて、教育出版です。言葉の特徴や使い方では、単元末に「言葉を増やそう」というコーナーが設定されており、その教材で取り上げられた言葉を使って文づくりをする活動が組み込まれています。情報の扱い方では、文型・話型や学習用語などが巻末に一覧で示されており、他の学習場面でも生かせるようにしてあります。

「伝え合う力」を高めるために、実際の言語生活に生きる語彙や情報の扱い方や日常生活でどう伝えればよいかというソーシャルスキルトレーニング的題材が設定されています。言語能力を育成するために、日常生活や学校生活に関連した題材が設定されています。また、目的意識や必然性・必要性を重視した教材が設定されています。一例を示しますと、6年生の上の96ページでは、話すことの考え方、話し方、聞き方、感想の伝え合いのポイントを示し、受け答えの仕方にも触れています。そういったものが、各学年で発達段階に応じて、まとめてポイントとして示されているところです。

続いて、主体的に学べるように、巻頭の「〇年生で学ぶこと」というコーナーでは、どのような学びで、どのような言葉の力を身に付けることができるのか、それを実生活のどのような場面で生かせそうかが示されています。学習のてびきには、学習を進めるためのヒントとなる図解や

反応例、話型などが示されています。

言語感覚を育成するために、言葉教材では、日常の言語生活から題材を取り上げ、言葉のはたらかしを実感的に考えられるようにしています。単元末の「言葉」のコーナーでは、本文の表現に着目し、文法的な知識や考え方をを使って読みを深められるようにしています。

1年生の上から図書館を利用した学習が入っています。「ひろがる読書の世界」という図書紹介のコーナーが、夏休み前の学習時期に設定されています。各教材の二次元コードから「読書履歴カード」にアクセスでき、読書の記録を促しています。

次に、光村図書です。言葉の特徴や使い方では、言葉の学習の他に巻末で考えや気持ちを伝える言葉を提示し、語彙を豊かにする工夫が見られます。情報の扱い方では、小単元での学びを踏まえて、大単元の学習に臨む単元配列の工夫がされています。また、考えを深め、表現するための思考ツールが2年生以上全ての学年の巻末に示しています。

「伝え合う力」を高めるために、アイスブレイクや対話スキルを学ぶコミュニケーション教材が設定されています。巻末には「伝え合うための言葉」が一覧となっており、課題解決につながる言葉も紹介されています。言語能力の育成のために「書く」単元において、様々な形式の文章を書く活動が設定されています。一例を示しますと、6年生の226ページでは小学校での学習のまとめ、スピーチとして、話す、聞く、感想を伝え合うことと、話題、構成、資料についても触れています。6年生ですが1年生から発達段階に応じて、そのようにまとめて示されているところ です。

続いて、主体的に学べるように、単元ごとに「問いをもとう」というコーナーを設け、課題意識・目的意識を掘り起こし、その問いと関わらせて学習の目標を明確にできるようにしています。巻頭に、その学年で学ぶことと前の学年で学んだことを掲載し、「単元扉」でも既習事項を示すことで、既習内容との系統性が明確になっています。

言語感覚を育成するために、言葉についての小単元では、知識を深めた上で使い方が練習できるようになっています。各単元で、それぞれの活動で使ってほしい言葉や表現を取り上げ、言葉による見方、考え方が育つようにしています。

読書単元「本は友達」が、年間2か所に位置づけられています。1年生の上から図書館を利用した学習が入っています。全学年で、年度当初に図書館を利用した学習が入っています。様々な読書活動も紹介されているところです。

続いて、2資料についてです。どの発行者もQRコードを読み取っての活用の幅が広がっていると感じているところです。動画であったり、タブレット上での打ち込みが可能であったり、紹介画像であったり、プリント形式であったり、使いやすさが増してきていると感じたところです。

それでは、東京書籍です。全ての単元で挿絵や写真が多く、イメージも膨らませやすくしてあります。学習の取組を示すページでは、子どもの吹き出しを使い、単元のゴールが分かりやすく

示されています。物語文や説明文の扉に大きな挿絵や写真があることで、学習内容をつかむことができ、学習意欲を引き出しやすくしています。単元の初めが見開き1ページで構成されており、大きなイラストで興味関心を引いています。QRコードを読み取ることで、参照となるコンテンツを閲覧、利用できるようになっています。

次に、教育出版です。全ての単元で挿絵や写真が多く、イメージも膨らませやすくしています。物語文の扉には挿絵があり、学習意欲を引き出しやすくしています。物語文では、登場人物の大きさを文字の大きさに反映する工夫があります。学習の流れを示したページでは、子どもが話しているイラストが掲載してあり、それぞれの学習段階でどのようなことを考えながら学習に臨めばよいか、見通しを持たせやすくなっています。QRコードを読み取ることで、参照する資料等をウェブサイト上で閲覧、利用できるようになっています。

次に、光村図書です。全ての単元で挿絵や写真が多く、学習意欲を高めています。また、子どもの吹き出しを使い、イメージも膨らませやすくしています。物語文の扉に挿絵があり、どんな学習内容なのか学習意欲を引き出しやすくしています。学習の取組を示すページでは、目標や問いが設定されており、単元の見通しを持ちやすくしています。イラストや図表が、本文を読む妨げとならない位置に配置されています。QRコードを読み取ることで、内容に連動したコンテンツを閲覧、利用できるようになっています。

続いて、3表記・表現についてです。どの発行者も記号を用いて、表記の意味が一目で分かるように工夫されていると感じています。

まず、東京書籍につきまして、10種類の記号が使われています。学習内容に対応する記号が使われています。新出漢字には音訓が示されているところです。ユニバーサルデザイン化に向けて、色覚の多様性に配慮し、色だけで区別する表現を避け、必要に応じて色以外の情報を加えています。物語や説明文教材は脚注罫線が引いてあり、点（・）と五行ごとの行数字で示されています。本文は、独自に開発した教科書体を使用し、小さい文字にはUD書体、漢字の振り仮名にはゴシック体を使用しています。

次に、教育出版です。11種類の記号が使われています。紙面下部の漢字の横に、新しく学ぶ、新しい読み、特別な読み方の漢字が分かるように印がつけられています。ユニバーサルデザイン化に向けて、色調のバランスや形で区別しやすいように配慮され、色による指示を含んだ設問や色に基づく活動を避けたりしています。領域にテーマカラーがあり、視覚的に何を学ぶのかを捉えることができます。本文は教科書体を使用し、巻末の漢字一覧は硬筆体で書写教科書の筆者の字を使用し学習上の関連を図っています。

次に、光村図書です。13種類の記号が使われ、学習の流れに対応しています。新出漢字は四角で囲われているため、旧学年で習った漢字との差別化ができています。ユニバーサルデザイン化に向けて、色覚の多様性に対応するため、色だけでなく、形や文字と合わせて表記するなどの工

夫をしています。本文の文字は光村教科書体を使用し、低学年は太く、中学年以降は通常の書体を使用しています。見出しなどの着目させたい箇所や図書紹介など、文字の小さい箇所にはUD書体を使用しています。

続いて、4総括です。全ての発行者で、他教科や他学年での関連性や系統性がまとめられ、SDGsへ目を向ける工夫がなされていると感じています。

まず、東京書籍です。日常生活の関連では、「本は友達」や作者別の作品が掲載されており、読書への親しみを持たせています。巻末に「言葉の広場」が設定されており、よりよい伝え方を学ぶことができます。巻末にその学年の学習に使う言葉とその意味が記されています。

系統性として、ノート、デジタルノートの作り方が巻頭に掲載されています。巻末には、「言葉の力」のつながりが掲載されており、前学年での学習との関連が明示されています。また、「言葉の広場」に各学年で学習する語彙がまとめられ、当該学年までに学習した漢字が掲載されています。

他教科・小中連携について、防災やSDGs、通信等、現在的課題を教材として取り上げています。一例を示しますと、6年生の6ページには、6年生の学習のスタートから中学校への内容が示されています。SDGsの関連性のある内容が示されています。また、12ページには、デジタルノートへのまとめ方も示されています。参考にいただければと思います。

次に、教育出版です。日常生活の単位では、言葉を学習するページが設定されていることで、語彙を増やす工夫があります。巻末の付録を使って本の紹介をし、読書への親しみを持たせています。また、句読点の使い方、言葉の広がりなど国語の基礎が示されています。

系統性として、巻頭で読む、書く、話すの項目ごとに単元がまとめて表示されており、年間どこでどのような力を身に付けるか分かりやすくなっています。巻末に、当該学年までに学習した漢字が掲載されています。

他教科・小中連携について、巻頭の単元一覧において、SDGs 17項目と単元の関連が明示されています。一例を示しますと、6年生の4ページにはSDGsの関連性をマークとして示しています。また、140ページには情報のまとめ方として、図や表に表す方式が示されています。

次に、光村図書です。日常生活の関連では、「この本読もう」や巻末の本の紹介で、読書への親しみを持たせています。巻末に学習内容で押さえないことがまとめてあり、振り返りができます。また、「言葉の宝箱」が設定されており、よりよい伝え方を学ぶことができます。

系統性として、巻頭では前学年で学習したことが掲載されています。また、5、6年生においては、指導内容の単元配列順が共通しています。巻末「漢字広場」において、当該学年までに学習した漢字が掲載されています。

他教科・小中連携について、6学年で単元「中学校へつなげよう」が組まれており、これまでの学びの確認が組み込まれています。一例を示しますと、6年生の12ページから数ページにわた

っているのですが、5年生との関連や生活との関連についてまとめられているページがあります。また、250ページには、中学校へ引き継ぐため身に付けた力がまとめられています。関連性が総括でまとめられている状況です。

吉田教育長 ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて選定委員の回答を求めます。

野口委員。

野口教育長職務代理者 はじめに、選定委員会としてどの教科書を推薦するのかご説明ください。

佐々木選定委員長 選定委員会では、調査報告書、学校における教科書の調査研究報告や法定教科書展示会会場において来場者の皆様が提出した意見なども参考にしつつ協議を行い、協議終了後、選定委員16名が3種類の教科書発行者について評価をそれぞれ5段階で記載し、無記名で投票いたしました。80点が満点となります。

その結果でございますが、2番、東京書籍59点、17番、教育出版49点、38番、光村図書77点でした。

本選定委員会といたしましては、点数の多かった順に、77点の光村図書、59点の東京書籍、49点の教育出版を推薦いたします。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 選定委員会では、どのような話題が出ましたでしょうか。

齋藤選定委員 選定委員会では、大きく2つの話題が出されました。

1点目は、伝え合う力を高めるための工夫について、各社で話合いの仕方や、どのように伝え合うか等を学ぶ単元が構成されていること。

2点目は、語彙力を高めるための工夫について、系統的にその学年で学習する内容が設定されていること、教科等横断的に、学習した言葉については授業の中で使用していることが出ました。

吉田教育長 よろしいですか。

荒木委員 はい。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

東委員。

東委員 学校の調査報告書ですが、どの教科書会社の推薦が多かったのか、その理由も含めてお伝えいただければと思います。

齋藤選定委員 学校からの推薦では、光村図書を推薦する学校が最も多く29票、次いで東京書籍が9票、教育出版が5票という結果でした。

推薦の理由といたしましては、東京書籍では挿絵や画像等の使い方が適切であり、配置のバランスがよい。単元を通して身に付ける資質・能力を「言葉の力」として位置づけて明示している。

教育出版では、言語活動の例が示されており、指導が主体的に学びを進めやすい。学習内容が豊富で、情報量が多い。

光村図書では、学びの流れが視覚化され、目指すべきゴールが明示されており、単元の学習が終わった後も学んだことをどのように生かすかが記載されてあると、そのような意見が出されました。

吉田教育長 よろしいですか。

東委員 はい、ありがとうございました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 国語科では、語彙の質と量が重視されていると思いますけれども、どのように学習するのでしょうか。

齋藤選定委員 まず、語彙の質と量を高めるためには、国語科以外の部分でも実はありまして、その教科独特の用語はその教科での学習及び他教科での学習や生活で使っていくように教員は心がけているところです。例えば算数で「垂直」という言葉を習ったとしたら、理科で実験するとき、「棒を垂直に立てましょう」と算数で使った用語を理科で使ったり、生活の中で「真っすぐ立ちましょう」と言うところを「垂直にきれいに立ちましょう」など、そういったところで学習で習った用語をほかの教科や日常の場面でもなるべく使うようにしているところがあります。それを、国語の授業では系統的にまとめたり、文法としてまとめたりしながら学習をしていきます。例えば東京書籍では、6年生の150ページに「言葉の相談室」というコーナーがあるのですが、各学年の発達段階に応じて載っています。発達段階の中で語彙力を高めていくという工夫がなされています。

続いて、教育出版です。6年生の上巻112ページは、一例ですが、「漢字の広場」という項目が設けてあります。このページでは、よりよい表現としてふさわしい熟語の学習ができるようにしており、これも各学年で発達段階に応じて分かりやすいようにまとめてあるところです。

光村図書でしたら、215、216ページに「言葉」という項目があり、ここでは各教科で使われている熟語の確認をする学習ができるようにしています。あくまでも6年生のところの例示ですが、各学年の発達段階に応じて、それに系統的に語彙を高め、質とか量を高めていくような、各教科書で工夫がなされているところです。

渡辺委員 ありがとうございました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

山口委員。

山口委員 選定委員会には、1号委員として保護者がいらっしゃいますけれども、どのような意見があったのでしょうか。

佐々木選定委員長 授業参観で、文づくりをする授業を見たが、子どもたちが生き生きと主体的に取り組んでいる様子が見られ、このような活動というのは、どの教科書を使ってもできるのだろうか、といったような意見が出されました。

吉田教育長 よろしいですか。

山口委員 はい。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 ないようですので、質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。

まず、調査の観点1、内容についてご意見はございますか。

東委員。

東委員 今、質問にお答えいただいて、学校の調査報告書でも、それから展示会のアンケートでも、確かに光村図書についての書き込みがもう圧倒的に多くて、私はその資料を拝見しながら読ませていただきました。東京書籍は、特にQRコードがすごく多くて、しかもデジタルノートの書き方もあり、これからタブレットを使う授業では、東京書籍の教科書というのはかなり威力を発揮するのではないかなとは思いました。「言葉の力」という図解があって、非常に効果的だなと思います。こうした言葉のコーナーというのは、どの教科書も非常に工夫されていて、教育出版も「言葉の広場」とか文化とか、もう本当によくまとめられているなというのが率直なところです。

光村図書がどうしてこれだけいろいろな書き込みが多いのかと見ていったら、特に展示会のアンケートでは、作品の結構入替えがあり、現代に合わせて新しい視点で入れられているというのを評価されているものが多く、例えば平和教育に関わる教材は、3年生から6年生までずっと満遍なくあって、全体的に確かに作品のバランスがいいなというのが1つありました。加えて、説明を聞き、全体を見ながら思ったのですが、スピーチをしようとか、表現や伝えるというところを相当力を入れて学ばせようという意図がすごく見えて、この点がやはり教科書としての完成度が高いのだなと思いました。単純に作品だけではなくて、問いを持って考えて、それを伝えたり表現したりということができるようになっていこうという、その意図が光村図書の教科書には非常にあって、その点が多分アンケート調査、展示会のアンケートなどでも書き込みが多かった理由なのだなと、非常によく分かりました。

それぞれ特徴があるのですが、少しデジタル化の中では東京書籍が一步先んじているかなと思いましたが、バランス的には光村図書、教育出版もコーナーの部分がよくできている印象でした。

吉田教育長 東書についてはQRコード、デジタルノート、あるいはほかの教科書会社でも言葉のコーナーについては整備されているけれどもということ、それから、光村については、作品のバ

ランス、完成度が高いのではないかというお話がありましたが、他にございますでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 それでは私も、東委員さんからお話がありましたけれども、東京書籍では12ページにデジタルノートのつくり方というのが出ていて、すばらしいなと思いましたし、10、11ページには国語のノートのつくり方というのも例示されていて、授業をやっていく上では参考になるのではないかなと思いました。

教育出版では、6年生の下86ページから卒業文集に、6年間の思いをつづろうとあります。卒業文集を書かせるときに非常に参考になるなと思いました。私も6年生を教えた経験はあるのですけれども、子どもにやってみなさいと言うと、どうしても修学旅行とか、1つに偏っていく傾向があったのですが、こういうものがあると助かるなと思いました。

一方、現場からも支持されている光村図書ですけれども、私は学び方がきつと深く先生方には定着してきているのかなと思いました。例えば6年生の10、11ページでは、どうやって学んでいくのかなということで、全体的な学び方について書かれていて、そして各単元では、例えば38、39ページで「問いをもとう」から始まり、「目標」、そして「ふり返ろう」と、見開きで、こういうふうに学習すればいいのだなということが見通しを持ってできるということで、支持されているのかなとは思いました。さらに40ページ「生かそう」で、大切なところや、次の特集につなげていくというところで、非常に分かりやすいのかなと思いました。

道徳の先日の教科書のお話のときは、あまり柱立てについては、学習するポイントはあまり多く示さないほうがいいのではないかという話もしましたが、国語はやはり国語の力をつけるということでは、これから分かりやすいほうがいいのかなと私は思いました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

山口委員。

山口委員 書体のことなのですけれども、UDフォントというのを各教科使われていて、見やすいという面がとてもあると思うのですけれども、国語の教科書に関しては、光村は光村教科書体というのを使ったりとか、東京書籍も独自に開発した教科書体を使うとか、フォントの工夫をされているというのが現実だと思います。UDフォントは非常に読みやすいのですけれども、独自の書体を使うことによって、書体が変わることによって印象が変わったりとか、心にすっと入ってくるものがあるとか、そういったところも感じてもらえるという意味では、光村と東京書籍が工夫されているのはいいのかなと思いました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 1年生は初めて漢字を習うのですけれども、そこで1年生の下巻の漢字を見てみましたところ、東京書籍は158ページ、例えば「見る」という漢字で、「見る」の「見」、読むほうの字を

太字にしているのです。対して教育出版は、「見える」の送るほうを太字にしていたり、また実際に出てきたページを見ますと、教育出版、東京書籍は、書き順を示しているのです。一方、光村図書を見てみますと、光村は出てきた当該ページのところに特に書き順は示されておらず、また巻末のこの本で習う漢字というところにも書き順等は示されていないのです。これは、それぞれ現場で教える先生方が工夫なさることだとは思いますが、個人的には東京書籍や教育出版のように書き順もあるといいのではないかと感じました。

吉田教育長 私からも、4年生の下で見てもらいたいのですが、「ごんぎつね」のところなのですが、東京書籍は36ページ、教育出版は7ページ、光村ですと13ページ、これが「ごんぎつね」の最初の部分なのですが、3社とも違うのです。だから当然挿絵も違うのです。最初に出てくる言葉のページ、これも違う。挿絵や内容について、こういうところで見ると違いが分かるのかなと思います。

また、学習過程についても、同じく東書の4年生の下5ページを見ると、これまでに学んだ言葉の力を思い出す、どんな力をつけるのか見通しを意識しながら進める、どんな力がついたか確かめながらふり返る、身に付けた力を生かすとしている。

また、光村の4年生の下7ページには、学習や生活の中から、まずは見通しや問いを持つ、次に、読む、書く、聞く、話す学習。ここでは、多分捉えるとか深める、そしてまとめる、振り返る、生かすと、こうつなげています。

ところが、学習指導要領では深い学びの実践が求められてはいるのですが、深い学びに関わるポイントの一つとして、少し言い回しが難しいのですが、教科ごとのものの見方、考え方をどう育んでいくかが挙げられるか、だと思います。ちなみに、国語の教科としての特質に応じたものの見方、考え方は、考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉え、論理的、統合的、発展的に考えることと整理することができると思っていますけれども、この点から各教科用図書にどんな工夫が見られるかを見ていく必要があると思っています。

ちなみに、光村の4年生の下32ページ、これは物語ですが、32、33ページ、それから54、55ページ、これを見比べてもらおうと分かるのですが、この物語の「深めよう」、「まとめよう」に、情景や場面の様子がよく分かる表現を見つけると違いが分かると思います。あるいは、登場人物の気持ちの変化について表す言葉遣いに注目するなども、まさに国語でいうところのものの見方、考え方です。さらに、説明する文章では、54ページ「深めよう」、「まとめよう」に、「深めよう」は、初め、中、終わりのまとまりごとで見るとか、「まとめよう」では、要約したりすることによって言いたいことを知ると、こういうような活動があります。これも国語的なものの見方、考え方になるのかなと思っています。こうした捉え、深め、まとめ、広げようの考え方に即した表記が、比較的明確にされていると思います。

また、光村の巻末なのですけれども、これは4年生の下172ページになると思いますが、これはどの教科書も扱ってはいるのですけれども、光村については、171ページのところの伝え合うための言葉ということで載せてあります。172ページには、学習に用いる言葉、そして173ページには「言葉の宝箱」というようなことでまとめてあり、語彙の量がほかのものと比べて豊富になっているかと思います。

他にございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 ただいま教育長からの言葉というお話がありましたけれども、言葉というのはやはり国語の力の土台になりますし、国語だけにとどまらず全ての教科、さらには日常の暮らしにおいても思考力の支えとなると思います。どの教科書も非常に工夫されていると思いました。光村図書につきましては、ただいま教育長さんがおっしゃったとおりだと思いますし、また東京書籍では1年生の上を除いて、各学年上下とも全ての教科書の終わりのほうに「言葉の広場」というのがあって、そこではたくさんの言葉が整理された形で掲載されていて、よいと感じました。これらによって語彙が豊富になって、話したり文章を書いたりするときに、非常に役に立つのではないかと思います。

また、読書についてですけれども、多様な本に親しむことで子どもたちの世界が広がり、豊かになると思います。光村図書では、「この本読もう」、「本の世界を広げよう」のところで、「読み終わった本には、四角に印をつけましょう。」となっていて、そういった細かなところにも子どもたちがどんどん読みたくなるような工夫がされていると感じました。

吉田教育長 他にはございますでしょうか。よろしいでしょうかね。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 それでは、調査の観点1については終了といたします。

次に、調査の観点2から4については一括して協議することといたします。この件について、ご意見ございましたらお願いいたします。内容の1のところでも、既に調査の観点2から4についても触れられているかと思いますが、よろしいですか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 この他に協議したい内容等はございますでしょうか。これもよろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ、これより国語の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 それでは、順次投票をお願いいたします。

〔順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはございませんか。

ないようですので、投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たり、立会人として、野口委員、東委員を指名いたします。

〔立会人立会いの上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告いたします。

投票結果については、発行者の番号順に、発行者番号、発行者名、評価点の合計点を読み上げます。

2 番	東京書籍	2 3 点
1 7 番	教育出版	1 9 点
3 8 番	光村図書出版	3 0 点

以上のとおり、国語の教科用図書は、38番、光村図書出版を採択することに決しました。

次に、書写の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 書写の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

杉井選定委員 はじめに、3つの教科書会社全てにおいて共通しているものについて説明いたします。調査の観点3（2）字体、色づかい、レイアウト等については、いずれの教科書においてもユニバーサルデザイン化に向け、字体はUDフォントを使用しており、色づかい等を工夫し、手本も利き手によらず見やすくレイアウトをしているという共通点がございます。それ以外の観点につきまして、教科書会社ごとに説明をさせていただきます。

まずは、東京書籍です。内容につきましては、書写の基礎的・基本的な知識・技能を習得させるために、「みつけよう」「たしかめよう」「生かそう」「ふり返ろう」の4段階で示されており、生活への活用が重要視されています。例えば（2）思考力、判断力、表現力を育成するための工夫については、目的に応じて文字を書く学習について、活用単元「生活に広げよう」というページが提示してあります。例えば6年生の24ページ「生活に広げよう」では、「発表のためのポスターを書こう」という形でよく分かりやすく書かれています。

続いて、(3) 学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫については、「書写の学び方」が表記されており、学習の流れが分かりやすくなっています。また、課題解決型の単元展開になっており、身近な硬筆の文字から課題を見だし、文字を整えて書くための原理、原則を見つけられる構成となっています。

続いて、(4) 毛筆と硬筆の関連については、2年生以上で普段書いている文字から、字を整えて書くための「書写のかぎ」を見だし、その原理・原則について毛筆を使って書くことで確かめ、それらを他の硬筆文字に生かすという展開になっています。

続いて、(5) 各教科や日常生活との関わりについては、活用単元「生活に広げよう」で、他の教科の学習等で行われる、書いて伝える活動に書写を関連づけた展開を提示しています。例えば4年生の24ページ「調べたことを伝える新聞を作ろう」で、清掃工場の見学についての新聞のまとめ方が掲載されています。このように社会科の学習と関連づけた内容となっています。

続いて、観点の2資料です。こちらは、擬音や動物の挿絵を使用することで、低学年でも理解しやすいように工夫されています。また、1、2年生の巻頭には、鉛筆の持ち方が右利き用と左利き用で示されており、両利きの動画が見られるQRコードがついています。このQRコードは、動画・シミュレーション・アニメーションの3種類で整理されています。

続いて、観点の3表記・表現です。2年生以上の巻末に「書写のかぎ」がまとめられており、既習のポイントが示されたページ数が表記されています。そのポイントを振り返りやすくされているように書かれています。

続いて、総括といたしまして、めあて達成に向けて、「書写のかぎ」で注目すべきポイントが提示され、単元の終わりの「ふりかえろう」の提示で、まとめやすくなるように工夫されています。また、文字と日常生活のつながりに注目し、文字文化に触れたり、文字の学びと他教科に生かせるように工夫がされています。

次に、教育出版社です。まず、観点の1内容については、全学年で「めあて」が示され、習得した知識や技能が明確になるようにされています。また、見開きの右ページには教材文字と単元名、左ページには学習のポイントがまとめられています。

続いて、(2) 思考力、判断力、表現力を育成するための工夫については、目的に応じて文字を書く学習について、「レッツ・トライ」として、下書きから成果物の完成までの学習過程が示されています。例えば6年生の16、17ページ「レッツ・トライ」では、校外学習のリーフレットがご紹介します。こちらは、成果物の完成までの学習過程がよく示されています。

次に、(3) 学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫についてです。全学年で「学習の進め方」について表記されており、学習の見通しが持てるようになっています。また、活動写真もついていて、大変イメージしやすくなっています。

続いて、(4) 毛筆と硬筆の関連についてです。単元の中で、「ためし書き（硬筆）」「ここが大

切（毛筆）」「まとめ書き（硬筆）」という流れが確立されています。教科書に試し書きとまとめ書きが書き込めるようになっており、毛筆と硬筆の学習の関連を図っています。

続いて、（５）各教科や日常生活との関わりについてです。「レッツ・トライ」「書いて伝え合おう」「知っておこう」では、他教科や様々な日常生活の活用事例が示されており、手紙の書き方も低学年に設定されています。

続いて、観点の２資料です。毛筆では、手本の紙面の文字をよく見てから、次のページで学習のステップを追いながら、ポイントを確かめることができる構成になっています。例えば３年生の19ページ、「大」という字の手本が掲載されており、20、21ページで左右の払いの筆遣いを穂先の写真を使って動きを見せることで、力の入れ方や抜き方を分かりやすく伝えています。また、QRコードで動画・シミュレーション・アニメーションの３種類で整理されています。

続いて、３表記・表現です。全学年の書写の言葉として、学習用語を明確に表記しています。文章が平易で簡潔であるとともに、運筆方法が分かるように具体的な言葉で表現されています。

総括といたしまして、「レッツ・トライ」や「書いて伝え合おう」のページで習得した書写の力を、教科等横断的な学習活動や日常生活に活用できるよう関連が図られています。また、「はっぴー」を設けることで、先の学年で学習することの見通しが持てるように工夫されています。

次に、光村図書です。１内容については、見開き２ページで学習が展開されています。３年生以上では、書き方の原理、原則を「考えよう」、毛筆で「たしかめよう」、硬筆に「生かそう」の３段階で構成されています。年度末には各学年のまとめ単元や、これまでの学習を確かめる「たいせつのまとめ」が工夫されています。例えば５年生の30ページから34ページにかけてでは、「たいせつのまとめ」が工夫されています。また、６年生の教科書には、全学年の学習内容が詰まった書写ブックが入っています。21ページに少し小さい形で、書写ブックという形で掲載されています。

続いて、（２）思考力、判断力、表現力を育成するための工夫についてです。目的に応じて文字を書く学習について、「書写広げたい」というページが提示されています。学年に応じた内容になっており、手紙の書き方やリーフレットの書き方などが取り上げられています。

続いて、（３）学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫についてです。３年生以上で「学習の進め方」が示され、見通しを持って学習に取り組める構成になっています。

続いて、（４）毛筆と硬筆の関連についてです。毛筆の後に「生かそう」が用意され、学習したことを確かめながら硬筆で書くように構成されています。

続いて、（５）各教科や日常生活との関わりについてです。「書写広げたい」というページで、日常生活や各教科における具体的な活用の仕方が学年に応じて提示されています。

続いて、２資料についてです。擬音や動物の挿絵を使用したり、低学年でも理解しやすいように工夫がされています。例えば３年生の18ページでは、縦画の書き方を擬音と猫の挿絵を使って、

このように分かりやすく表現されています。

続いて、3表記・表現です。2年生以上の全教材で「たいせつ」を設け、用語などを明確に示し、表記や用語は学年で段階的に設けつつ統一し、発達段階に応じて分かりやすい文章で表現されています。また、この「たいせつ」には学習した順に番号が振られ、巻末のまとめで振り返りができるようになっています。

最後に、総括といたしまして、手書きの文字ばかりだけではなくて、タブレットを活用して文字を打ったり作成したりする際にも意識するとよい文字のポイントが書かれており、子どもたちのこれからの生活につなげていくことで学びの広がりを意識させています。また、全学年に、SDGsを意識した教材が取り上げられており、書写とSDGsを関連づけて考えることができます。

以上で書写の説明を終わりにさせていただきます。

吉田教育長 ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて、選定委員の回答を求めます。

野口委員。

野口教育長職務代理者 はじめに、選定委員会としてどの教科書を推薦するのか、お話しください。

佐々木選定委員長 選定委員会では、調査報告書、学校における教科書の調査研究報告や法定教科書展示会会場において来場者の皆様が提出した意見なども参考にしつつ協議を行い、協議終了後、選定委員16名が3種類の教科書発行者について評価をそれぞれ5段階で記載し、無記名で投票いたしました。80点が満点となります。

その結果でございますが、2番、東京書籍51点、17番、教育出版61点、38番、光村図書79点でした。

本選定委員会といたしましては、点数の多かった順に、79点の光村図書、61点の教育出版、51点の東京書籍を推薦いたします。

吉田教育長 よろしいですか。

野口教育長職務代理者 はい。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 選定委員会では、どのような話題が出ましたでしょうか。

杉井選定委員 選定委員会では、大きく2つの話題が出ました。

1点目は、書くことを生活に生かすことについて、各社とも新聞やリーフレット、家族への手紙を書くことなど、生活や授業に生きる題材が掲載されていることでございます。

2点目は、毛筆と硬筆の関連性についてでございます。今は毛筆で学んだことを生かして硬筆で書いてみようというページが設けられており、関連づけが行われていることが出ていました。

吉田教育長 よろしいですか。

荒木委員 ありがとうございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 学校の調査報告書では、どの教科書会社の推薦が多かったのでしょうか。また、その理由もお聞かせください。

杉井選定委員 学校からの推薦では、光村図書を推薦する学校が最も多く27票、次いで教育出版が12票、東京書籍が7票という結果でした。

推薦理由としまして、東京書籍では学習のポイントが豊富で、分かりやすく示されている。用具の準備、片づけの仕方が細かく表示されているという理由でございます。

教育出版では、文字の形を丸、四角、三角などに分類し、字形を捉えやすくしている。また、筆の動きや穂先の様子が拡大して示されており、分かりやすいという理由でございます。

最後に、光村図書では筆の動きや力の入れ方等、イラストや写真入りで見やすくしている。また、他教科等の学習活動や日常生活に生かせるページが豊富である等の意見がございました。

渡辺委員 ありがとうございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

山口委員。

山口委員 国語と書写の教科書の内容は、リンクしていたほうがよいのでしょうか。

杉井選定委員 先ほど書写の教科書の中で、生活に生かすという題材が多く設けられるというお話をさせていただきましたが、国語でも同様に縦書きやリーフレットの書き方などが取り上げられているものが多くございます。そうしたものとリンクしていくことが可能かと思います。また、2年生の例えば光村図書ですと16、17ページに、国語の教科書の題材で取り上げられている「スイミー」が載っています。こうしたものが国語の学習と書写の学習でリンクしているということで、子どもたちでも学習しやすい内容になるかと考えられます。

吉田教育長 学習しやすいけれども、必ずしも一致しなければいけないということではない。

杉井選定委員 はい。一致しなくても、それは大丈夫だと思います。

吉田教育長 よろしいですか。

山口委員 はい。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

東委員。

東委員 選定委員会には、保護者の方がいらっしゃると思うのですが、保護者の方からどんな意見が出たのかお聞かせください。

佐々木選定委員長 まず、子どもたちがやはり書くという機会が、今大変少なくなっているのでは

ないかという意見がありました。書く機会を増やしていくことが大切だと思うが、それぞれの教科書で重点を置いているところはありますかといった意見がありました。

東委員 その重点を置いているところはありますかという、それは選定委員会の中ではどういう回答というか、どういう決着になったのでしょうか。

杉井選定委員 タブレットなどを使って文字を打ったりすることが多いのですが、でも書く文化は決してなくならないということで、いろいろな、先ほどもお話ししましたように生活の中で書くという場面が多々ございますので、この教科書会社の中でもそうしたところを取り上げることによって、書くということは大切だ、重点を置かれているというところで意見がございました。

東委員 分かりました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 他になければ質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。

まず、調査の観点1、内容についてご意見はございますか。

東委員。

東委員 学校調査の研究資料とか展示会で出たご意見を見ていると、やはり光村とかが多くて、内容的には、それぞれ工夫されていて、どれも甲乙つけ難いです。特に教育出版であれば「レッツ・トライ」という形でまとめていたり、光村は学年によって、発達段階によって少し違うなとは思ったのですが、身近な言葉を探そうとか、発展とかいった形でまとめてくれていて、本当に言葉に対しての関心を引きつける努力をどの教科書会社もしているなと思いました。

東京書籍も発表用のポスターや新聞を作ろうという、書くだけではなくて、書いてコミュニケーションまでつないでいこうということができる教科書で、これもまた魅力的だなと思います。

どれもいいので何とも言えないなと思いました。それぞれ特徴があるなと思いました。

ただ、ほかの教科書との関係で、絶対一緒である必要はないと思いますが、光村は確かに多少関係ありなのかな、とは思いました。それから、空に大きく書こうというのは面白かったです。空に自分で書いてみようなんて、すごく広がりのある提案の仕方で、硬筆、毛筆だけではなくて、空に書くという、こういう動きのあるものというのが入ってくると、活動にも幅が広がるなと思いました。各社それぞれ利点があったなというのが率直な感想です。

吉田教育長 各社とも工夫がなされているというお話でございましたけれども、他にございますでしょうか。

山口委員。

山口委員 書写という科目は、上手に字を書くということもあると思うのですが、いかに伝

えるかということを読んでいく教科なのかなと思います。その中で、光村の6年生の書写ブックは、1年生から6年生までも、いろいろ新聞を作ったりポスターを作ったり等の工夫もあって、文字だけではなくて行間をどれぐらい空けるか、見出しをどんな文字で書くか、こういったところは、実際書くことにも応用できます。大事なことなので、例えばWordの作成や自分でポスターを作る、レイアウトを決めるときにも非常に有用な視点だと思うので、光村の書写ブックのところは、非常に今後デジタル化が進んでいく中でも特に大事な視点だなと思いました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 私も今の山口委員さんのおっしゃった光村図書の「書写ブック」が非常に良いと思っておりまして、パソコンで文字を入力する際に、余白をどのくらい取るとどのくらい見やすいのかということが、非常にこちらの書写ブックで勉強になると思いました。光村図書は全体的にすっきりとしていて、見やすいという印象を持ちました。大切なポイントもスッと頭に入って、分かりやすいと感じました。

吉田教育長 ありがとうございます。

私から、同じようなことになってしまうのですが、6年生で比較してみると、東書の6、7ページ、教出の6、7ページ、光村での3、4ページ、これは同じようなことが取り上げられているわけですが、見やすい、分かりやすい、要領よくまとめてある等で見るとどうなのか、と思います。

同様に、同じものを取り扱っている中に、東京書籍の18、19ページ、教育出版の12、13ページ、光村の6、7ページ、これは3つの部分を持つ漢字の字形の整え方というのが載っているのですが、光村の猫のキャラクターが3匹描かれていて、真ん中だけ少し出ているところが分かりやすいな、なじみやすいなと思いました。このように分かりやすくなるようなレイアウトが工夫されていると思っています。

そして、再三出ていますけれども、光村では導入の段階で指導や理解がしやすくなるよう、書写の始まる1年生では書写スタートブック、1ページから11ページまで費やしていますけれども、それから毛筆が始まる3年生では毛筆スタートブック、1ページから13ページまで、そして6年生では先ほど来話題が出ていますけれども、書写ブックがあります。これは、書写での学びを各教科や生活に生かせるように載せてあると思います。21ページから28ページに、こういうものが用意されていると思います。

他にございますでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 学校側の推薦理由の中に、光村図書では日常生活に生かせるページが豊富であるというお話がございました。6年生を見てみますと、例えば16ページにポスターの作り方、

さらに左の方には、保護者の方に言わせるとあまりタブレットばかりとかという話になってしまうのですけれども、タブレットを活用して制作するときも文字の配列に気をつけましょうということが載っている、現代的なものだなと思いました。

32ページのパンフレットの書き方には、「私のおすすめの一曲」ということで、いろいろな色づかいにも少し言及できるような資料が載っている。また、フェルトペンの使い方といますか、穂先の特徴も確認していることで、子どもたちには分かりやすいのかなと思いました。最後に42ページ「今の思いを書き残そう」は、黒板に書くときにもやはり字の大きさとか丁寧さというのは要求されるのだよ、ということを教えるにはいいのかなと思いました。ややもすると「黒板には何も書くんじゃない」、「落書きするな」昔は言われたと思うのですけれども、黒板でもこのようにきれいに書くと書写の力が生きるのだぞ、ということが伝わっていいなと思いました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 どの教科書を使っても、子どもたちにとってとても分かりやすく、理解しやすいような工夫がされているなと感じました。教育出版なのですけれども、5年生の一番後ろのページに中国語でのこんにちとはとか、韓国語、朝鮮語のこんにちとはとか、このような形で書いてあるのが面白いなと思って見ておりました。そして、同じく教育出版の6年生の表紙裏「伝えたいな、日本の書くということ」で、毛筆用語を英語で伝えようということで、すずりはink stoneというのだなと私も初めて知ったりとか、中国の習字の授業であったり、アラビア書道、そういうことがとても面白く、勉強になりました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ、調査の観点2から4については一括して協議したいと思います。

既に幾つか出されているわけですが、これについてご意見ございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 他に、この観点以外に何か協議したい内容はございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 ないようですので、これより書写の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 それでは、順次投票をお願いいたします。

〔順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはございませんか。

投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、野口委員、それから山口委員を指名いたします。

〔立会人立会いの上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告いたします。

投票結果については、発行者の番号順に、発行者番号、発行者名、評価点の合計点を読み上げます。

2番	東京書籍	22点
17番	教育出版	24点
38番	光村図書出版	30点

以上のとおり、書写の教科用図書は、38番、光村図書出版を採択することに決しました。

次に、外国語の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 外国語の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

鈴木選定委員 まず、6社に共通することを申し上げます。各社とも単元の導入に当たっては、映像を見たり音声を聞いたりすることでターゲットセンテンスに触れるとともに、活動の見通しを載せています。その後、歌やダンス、スモールトークなどの活動を通して「聞く」、「話す」活動を行った後に、コミュニケーション活動へとつなげています。

次に、内容について、教科書会社ごとに6年生の教科書でご説明いたします。

東京書籍「NEW HORIZON Elementary」は、6、7ページ「Let's Chants」や「Let's Read And Write」で、単元で使われる基本的な語彙や表現を何度も声に出す活動が設定されています。「Starting Out」で背景知識やターゲットセンテンスに触れてから、アウトプットする展開になっています。「Sounds and Letters」でアルファベットの文字と音を知る活動が毎時間あり、さらに10ページ「Enjoy Communication」で身に付けた表現を生かしてコミュニケーションを図る活動が設定されています。「Small Talk」「Let's Try」「Enjoy Communication」と段階的に発語量や内容を増やしながら、自分の思いを表現できる場が設けられ、36ページ「Let's Check Your

Steps」では、各Unitで学んだ表現を振り返って自分のことを伝えるプレゼンテーションの場が年間3回設定されています。

10ページに戻ります。「Enjoy Communication」では、会話を続ける表現例や発表で使う表現例など、他者との関わりを意識した内容が示されています。また、12ページ「Over the Horizon」では、世界の人の生活や文化、風景が既習表現を使って紹介され、外国語の背景にある異文化にも触れることで、児童の視点を世界に広げることができるようになっていきます。どのUnitもインプットから入り、児童が背景知識や表現、語彙に慣れ親しんでからアウトプットする流れです。

続いて、開隆堂「Junior Sunshine」は、14ページ「Let's Watch and Think」で新出語句や表現に出会い、「Song Box・Chant Box」で語彙や表現を何度も練習できる活動があります。また、15ページ「Let's Listen and Read」で聞く活動をしてから読む活動につなげています。

15ページ「Let's Try」で学習した語句や表現を使ってやり取りを行い、さらに17ページ「Activity」でLessonのゴールの言語活動が設定されています。自分の思いを表現できる多様な場が設定され、伝え方の工夫を考えたりアドバイスをしたりして、英語で伝える力をブラッシュアップできるようになっています。

19ページ「Activity」のように「Let's say it」として、会話を深める質問文や相槌の例が紹介され、相手意識や目的意識を持った活動を行えるように場面設定がされています。22ページのように各Lesson末に「Around the World」があり、様々な国の生活の様子や文化が動画で紹介されています。48ページ「Our World」は年間3回設定され、日本語と動画で世界の食生活や仕事、スポーツ等が紹介されていて、世界の国々や自国の魅力を考えることができます。各Lessonは、「Let's Watch and Think」で内容が想像できるようになっています。主な表現は、「Chant Box」等で繰り返し扱われます。ターゲット語彙に慣れ親しんだ後、簡単なリスニングとスピーキングに取り組み、さらに内容を増やして練習できるようになっています。Lessonの終わりは「Let's Write」で、学んだ内容を書く活動があります。

続いて、三省堂「CROWN Jr.」は、12ページ「Panorama」で語句や表現に出会い、14ページ「Let's Watch/Let's Listen/Let's Speak」へと、英語をたくさん聞いてインプットした後、アウトプットするという流れになっています。「Sound Chant/Word Chant/Phrase Chant」と3種類のチャンツで練習できるようになっています。また、32ページ「ABC Fun Box」で文字や音に親しむ活動が設定されています。

18ページ、ステップアップの「Let's Listen and Read」は、英語を文字と結びつけ、「Let's Listen」「Let's Write」を通して学んだことを振り返ります。各Unitは「HOP」「STEP」「JUMP」の3段階に分かれ、自らのゴールを設定した後に語句や表現を身に付け、学んだ語彙や表現を振り返って自分のことを伝える構成になっています。発表の場面での「JUMP」は、より伝わりやすい発表になるようにアドバイスが示されています。

また、20ページ「Hello, World!」は年間3回設定され、世界のスポーツや祭り、学校生活や職業などが日本語と動画で紹介されています。全Unitは「Panorama」を通じて、単元の背景知識に触れられ単元で学ぶ内容を想像できるようになっています。インプットからアウトプットに無理なくつながられる構成です。「Let's Speak」「Let's Talk」の後に「Let's Read & Write」が設定され、慣れ親しんだ語句や表現を書く活動につながっています。

教育出版「ONE WORLD Smiles」は、10ページ「Let's Watch」で映像を見て内容を捉え、「Let's Sing」や20ページ「Let's Say It Together」で繰り返し練習できる場が設けられています。また、14ページからの「Activity」が、学習した語彙や表現を使う活動から、単元の目標に関連した活動へと段階的に設定されています。各Lessonの最後に、20ページのように「Review」があり、単元で学んだ語彙や文法をWritingで復習できるようになっています。各Lessonは映像を見て内容を捉え、聞いて慣れ親しむ活動から、思いや考えを伝える活動につながる流れです。段階的に練習できるように、14ページ「Activity 1」は1文でやり取り、15ページ「Activity 2」では2文以上でのやり取りになっています。16ページ「Final Activity」では、既習表現を使い自分のことを表現する活動が設定されています。それぞれの「Activity」では、ペアやグループで協力し合いながらコミュニケーション活動をする機会が設定され、友達との交流をより深められるようなアドバイスがあったり、相槌のフレーズが紹介されたりしています。24ページ

「World of Smiles」では、外国の子どもたちの様子を紹介し、41ページ「Let's Look at the World」では、外来語や外国の学校生活や文化、世界の環境問題などが日本語と動画で紹介されています。「Listen 1」「Listen 2」「Activity 1」「Activity 2」「Final Activity」の順でインプットからアウトプットの流れがスモールステップで無理なく練習できる構成です。

光村図書「Here We Go!」は、各UnitのStepで、14ページ「Story」を通して、学習する表現に気づくことから始まり、聞く、話す、読む、書くとスモールステップを踏んだ活動になっています。また15ページ「Let's listen and point」、16ページ「Let's chant」で語彙をインプットでき、イントネーションや発音のコツも紹介されています。

文字や表現を使ってお互いの考えや気持ちを伝え合う17ページ「Let's try」と、話題を別の相手に伝えたり詳しく尋ねたりする「Plus One」が設けられています。各ページには「Small Talk」が設定され、話題提供となる質問文が示されています。各Unitは3段階で構成されていて、「Hop!」で単元のゴールを示し、「Step 1・2」では、聞く、話す、読む・書くをスモールステップで進んでいき、「Jump!」で表現の方法を広げる活動を行う構成です。20ページのように、各Unitの「Jump!」の「Let's watch and think」で12か国の小学生が映像で登場し、「世界の友達」では、各国の小学生の考え方や暮らし方に触れることで、文化の違いや共通点を見いだすことができるようになっています。

「Hop」「Step 1」「Step 2」「Jump」の順で、スモールステップでスパイラルに活動が配置され

ています。「Small Talk」「Plus One」では、Unitでの主な表現が繰り返し扱われ、文構造等の気づきにつながるようになっていきます。複数のUnitの学習の後、まとめの言語活動を設定し、学んだ表現を発信できるように構成されています。

啓林館「Blue Sky」は、各Unitの初めに、14ページ「Introduction」と「Watch the Scene」があり、場面や言葉の意味が想像できるようになっています。16ページ「Listen and Do」や18ページ「Words and Phrases」でターゲット語句を聞き、16、17ページの「Jingle」や「Chant」で音の強勢やイントネーションに気をつけながら練習します。また、「Activity」では学んだフレーズをペアでやり取りしたり、Unitの最後に自分の思いを発表したりする活動が設定されています。

「Step 1・2」では新しい語句や表現に慣れ親しんで簡単なやり取りで発表し、「Step 3」で学んだ語句や表現を用いてコミュニケーション活動をします。また、46ページ、学期ごとの「REVIEW」では、どのような英語を使うか考えられるようになっています。

コミュニケーションを円滑に進めるヒントが示されている、29ページ「Tips」があり、巻末にも会話の中で使える相槌や質問の表現が掲載され、相手意識を持ったコミュニケーションが身に付く工夫がされています。20ページ「Friends around the World」では、世界の子どもたちの様子が紹介され、22ページ「Did you know?」でさらに詳しく世界の子どもたちの日常生活が日本語で紹介されていて、異文化にも触れることができるようになっています。

全Unitで「introduction」や「Watch the Scene」など児童が学ぶ内容を想像できる活動から入り、インプットからアウトプットの流れになっています。23ページのように、各Unitの最後には、「Let's Read and Write」で、アルファベットや単語のスペルの書き取りができるページがあります。

続いて、資料についてです。各社とも巻頭及び巻末に国際理解やSDGsの内容が掲載されています。CAN-DOリストや「Classroom English」、ローマ字表、アルファベット表、相槌の例なども多く掲載されています。絵辞典は、教科書会社により編集は異なりますが、東京書籍、三省堂は教科書と別冊で5、6年生共通です。開隆堂、光村図書も別冊ですが、学年ごとに分かれています。教育出版、啓林館は教科書の巻末に掲載されています。デジタルコンテンツについては、どの出版社にもQRコードがついていて、タブレット端末で読み取ることで音声を聞いたり映像を見たりすることができます。

表記・表現についてです。各教科書会社ともに、各単元の導入で活動のゴールが示され、見通しが持てるようになっています。英語を書く際の4線は、線の色や点線か実線かの違いはありますが、第2線と第3線の間隔が広く取られていることは共通しています。

最後に、総括です。東京書籍は、「Over the Horizon」で英語圏以外の国の生活や文化などにも触れています。タブレットを使用したり、車椅子に乗った登場人物がいたりなどSDGsを意識した場面が掲載されています。年間3回「Check Your Steps」で学びを振り返ることができます。

「My Picture Dictionary」の後半に、「CAN-DOの樹」があり、Unitごとの振り返りができます。教科書にも振り返りが設けられています。

開隆堂は、「Around the World」で世界へ視野を広げることができます。各国の生活、文化に触れるとともに、日本各地の文化に触れる機会も設けています。年に3回、「Let's Check」があり、それまでの学びを確認できるようになっています。日本語、英語ともに記載されている情報量が多いです。教科書の端末にCAN-DOチェックがあり、Lessonごと、さらに技能ごとに振り返りができます。

三省堂は、「Hello, World!」で世界への興味関心を高め、日本各地の文化などにも触れています。日本語の説明が少なく、英語とイラスト、写真から推測する構成になっています。全体的に情報が精選されています。CAN-DOは「My Dictionary」の巻末にあり、技能ごとにまとめられています。教科書の巻末にも振り返りのページがあり、Lessonごとの振り返りも設定されています。

教育出版は、「World of Smiles」「Let's Look at the World」で日本や世界の様々な文化に触れる機会を設けています。各Lessonのまとめに簡単な英作文があり、6年生の最終单元では、「My Book」をまとめる活動があります。「Sounds and Letters」では、フォニックスを意識した音と文字の学習を取り入れています。全体を通じてのCAN-DOはありませんが、Lessonごとの振り返りが設定されています。

光村図書は、日本、世界の様々な文化などを題材に取り入れています。巻末のまとめシートに1年間の学習の軌跡が残るように工夫されています。教科書の巻頭に「CAN-DOリスト」があり、各Unitについて、技能ごとの習熟度が自己評価で記録できるようになっています。さらに、Unitごとの振り返りも設定されています。

啓林館は、「Did you know?」で世界へ視野を広げられるようになっています。5年生では、世界遺産、自然遺産について、6年生では日本の魅力について触れています。年3回「REVIEW」が設定され、各単元の情報は精選されています。巻末には「CAN-DO List」があり、Unitごと、さらに技能ごとに振り返りができます。

各社とも、6年生後半の单元には中学校生活についての内容が入っています。

吉田教育長 ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて、選定委員の回答を求めます。

質疑はございませんか。

渡辺委員。

渡辺委員 まず、選定委員会として、どの教科書を推薦しますか。

佐々木選定委員長 選定委員会では、調査報告書、学校における教科書の調査研究報告や法定教科書展示会会場において来場者の皆様が提出した意見なども参考にしつつ協議を行い、協議終了後、選定委員16名全員が6種類の教科書発行者について評価をそれぞれ5段階で記載し、無記名で投

票いたしました。80点が満点となります。

その結果でございますが、2番、東京書籍56点、9番、開隆堂59点、15番、三省堂77点、17番、教育出版43点、38番、光村図書51点、61番、啓林館39点。

本選定委員会といたしましては、点数の多かった順に、77点の三省堂、59点の開隆堂、56点の東京書籍を推薦いたします。

渡辺委員 ありがとうございました。

吉田教育長 他にございますか。

山口委員。

山口委員 選定委員会ではどのような話題が出たのでしょうか。

鈴木選定委員 選定委員会では、大きく2つの話題が出ました。

1点目は、中学校との円滑な学びの連携について、各社工夫があり、例えば6年生の最後の単元で中学校生活について触れる教科書がある。また、書くことについて、小学校では見て書けるようにすることが求められるが、6年生の最後に、今までの学びを使って自分で書く活動を取り入れているものもある。

2点目は、アウトプットが苦手な児童でも楽しめる工夫について、インプットをたくさん行った後に、アウトプットを設けるという展開の教科書が多く、ヒントやアドバイスの例示もされているということが出ました。

吉田教育長 よろしいですか。

他にございますでしょうか。

東委員。

東委員 学校の調査報告書ではどの教科書会社の推薦が多くて、その理由は何であったかともご説明いただけるとありがたいです。

鈴木選定委員 学校からの推薦では、三省堂を推薦する学校が最も多く22票、次いで東京書籍が9票、開隆堂が8票という結果でした。

推薦理由としましては、東京書籍ではピクチャーディクショナリーがついていて、単語が調べやすい。何をどのように予習し、進めていくと何が身に付くのが分かりやすい。

開隆堂では、初めに既習内容のまとめがあり、本時につなげやすい。中学校で扱う語句など、文字に関する学習が充実している。

三省堂では、各学期でHOP、STEP、JUMPの構成となっており、児童がゴールを見通して活動に取り組める。外国の仕事や文化などの資料が豊富である。

教育出版では、紙面構成がシンプルで分かりやすい。挿絵と活字のバランスがよい。

光村図書では、「いつも大切」のコーナーがあり、年間を通して意識させたいことが示されている。英単語が読めなくても、視覚的に理解できる。

啓林館では、学習内容がとても豊富である、などの意見がありました。

吉田教育長 よろしいですか。

東委員 はい、ありがとうございました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 3、4年生での外国語活動を踏まえまして、子どもたちが英語を好きになるような教科書だとは思いますが、何か工夫はありますでしょうか。

鈴木選定委員 共通するものとして3点挙げさせていただきます。

先ほど来申し上げましたように、インプットからアウトプットということで、無理のない単元構成がされています。

2点目として、興味関心を高める豊富な題材が用意されています。

3点目として、デジタルコンテンツには単語ゲームなどの活動があったり、アニメーションなどを活用して子どもの興味関心を引くような展開となっています。

吉田教育長 よろしいですか。

荒木委員 はい。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 ほかの教科でも聞いているのですけれども、選定委員会には1号委員として保護者の方がいらっしゃいますけれども、どのような意見が出たのでしょうか。

佐々木選定委員長 まず、QRコードがどう活用されているのか知りたいという意見が出ました。

これについては、その後の協議の中で、実際にやはり英会話の活動の場合は、実際に映像が見えたり、そのシチュエーションが見えたり、その発音が聞こえてくるということがすごく大事なことで、とてもそういった活動をうまく活用できるのだという話があり、それを受けて、最終的に外国語の6年生のゴールが英語に慣れ親しむことが大切なのだということがよく分かりました、というような意見になりました。

野口教育長職務代理者 ありがとうございました。

吉田教育長 慣れ親しむから、今回の目標はまた違っているかと思うのですけれども、この点はどうでしたか。

鈴木選定委員 今回の学習指導要領の目標として、コミュニケーションを図る基礎となる資質、能力を育成することを目指しているということがありましたので、これにつきましてはこれまでの慣れ親しむところで中学校との接続が必ずしも十分でなかった点から、6年生の最終段階として、それまで3、4年生の外国語活動を通して慣れ親しんできたものを、5年生で読んだり書いたりするという活動に無理なく移行できるように、各社とも構成されています。

吉田教育長 よろしいですか。

野口教育長職務代理者 はい。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

協議を行う前に、前回の採択では小学校の英語の教科用図書については初めての採択であったことから、私から話をさせていただきましたので、今回も同様に話をさせていただきます。選定委員から話がありましたが、前回の学習指導要領では小学校の外国語活動については、コミュニケーションの素地となる資質、能力を育むが目標とされ、外国語の音声や表現に慣れ親しむ活動が中心となっていました。しかし、小学校の外国語活動と中学校の外国語科教育とのギャップが取り沙汰され、これも選定委員会で話がありましたが、円滑な接続が図られていないとの指摘もあったことから、今回の学習指導要領では小学校英語を教科として新設し、小学校中学年、3、4年生での聞く、話すを中心とする外国語活動を経て、高学年、5、6年生で、これに読む、書くを加えて、コミュニケーションの基礎となる資質、能力を育むを教育の目標として、総合的、系統的に行うとともに、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質、能力を育むを教科の目標とする中学校への円滑な接続を図るとしたものです。

そうすると今度は、先ほど申し上げたことと逆に、英語に対し苦手意識を持つ子どもを小学校段階でつくってしまわないかとの懸念が生まれてまいりました。そこで、今回の学習指導要領では語彙や文法などの習得に偏ることなく、言い換えると、書いて覚えるや文法を理解するといったことを先行するのではなく、これらを実際のコミュニケーションを通して活用し、それを繰り返すことによって、外国語やその背景にある文化を理解し、相手に配慮して、目的や場に応じてコミュニケーションするといった資質、能力を他の能力と併せて育成する必要がある、としています。このような点から、どのように教科用図書が工夫されているかを見ていく必要があるかと思えます。

それでは、協議を行います。選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。

まず、調査の観点1、内容についてご意見はございますか。

東委員。

東委員 新学習指導要領で、今4技能というのが入ってきて今回全部見させていただいて、調査の報告もお聞きして、どの会社もやはり読みを意識して細かく分けているというのはよく分かったのです。私は、少し細かく分け過ぎてしまっていて、分かりづらいのではないかと懸念されると

見ていました。例えば光村は、HOP、STEP、JUMPでSTEP 1・2と分けていたり、東京書籍もスタートから始まって最後まで4段階に分けているのです。それぞれ区分しているのだけれども、これを子どもたち全員が理解して学習できるのだろうかという懸念が少し私にはありまして、学習指導要領どおり過ぎるという印象を一番に持ちました。

そういう意味では、やはり楽しく学べたり、それから今回QRコードでビデオ、動画が見られるので、動画の数だけでいったら三省堂が一番多く、いろいろな動画を見られたりします。三省堂の場合は、3段階で、HOP、STEP、JUMPで、JUMPのところで発表の段階というふうに、あえてシンプルに詰めているなという印象でした。むしろ三省堂みたいなまとめ方が、もしかしたら使いやすいのではないかなということは、実感としては思いました。

教科書展示会会場のアンケートや学校からのアンケートを見ると、やはり同じようなことを考えられていて、東京書籍は歌があったりチャンツがあったり楽しく学べる、三省堂は見やすくて流れが分かりやすい、HOP、STEP、JUMPというシンプルな構造というのがよい、とありました。そのとおりだなと思いました。

選定委員会で推薦された3つの教科書会社を比べると、三省堂と東京書籍の2社は特徴があるなと思いました。以上のような視点で判断していきたいなとは思っています。

吉田教育長 楽しく学べるということを主体として見ていくと、動画の数が多いとか、あるいはHOP、STEP、JUMPでシンプルにまとめているというようなことで、東書あるいは三省堂について、まず重きを置いて見ていくというお話がございました。

どうでしょうか、皆さん。

山口委員。

山口委員 今、話題にあがったところ、上位の3社を比べてみると、三省堂が一番、先ほどもご意見があったように文字数が少なく、最後になってくると日本語が少なくなって英語だけみたいな感じになってくるところがあります。私も、外国語の学習は日本語が補助輪のようについていくよりは、そういうところから離れないといけないと意識させるような、少し日本語を減らしていくというのも大事な視点なのかなと思っています。そういった意味で三省堂は、日本人が英語を学んでいくときの流れに割と近い自然な流れのように感じました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 学校調査の意見を見ると、東委員さんもおっしゃったように、HOP、STEP、JUMPの構成、流れがさらに定着したのだなとは感じました。

ぱっと見たときに、東京書籍は結構書く活動がたくさんあるなという印象がありました。また、三省堂でも活動の最後を書く活動を入れたりとか、開隆堂も最後を書く活動を入れたりしているのですけれども、全体としては言語活動のバランスが三省堂はよく取れているのかなという印象

を持ちました。その点が、学校現場にも定着したのかなという感じを持ちました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 教科のゴール、目標に関してですけれども、先ほどのご説明と教育長さんのお話のとおり、3、4年生から外国語活動が入って、5、6年生で教科としての外国語になる、5、6年生はコミュニケーションを図る基礎となる資質、能力を育成する、それを目指しているということ、3、4年生は聞くこと、話すことを中心とした活動を通して外国語に慣れ親しんで、その上で5、6年生では段階的に文字を読むこと、書くことを加えて体系的な学習をして、中学校への接続を図るということになっていると思います。

どの教科書も様々に工夫がされていると感じたのですが、中学校への接続ですとか読むこと、書くことを加えるということに関しますと、東京書籍は文字についてUnitごとに「Sounds and Letters」があって、そこでは丁寧な書き方指導もあり、音声との関連もしっかり学べるようになっていたと思いました。別冊の「My Picture Dictionary」も単語だけでなく表現も充実して、よくまとまっていると思いました。中学校で具体的に文の構造を学習するときも、この2年間の楽しみながらもしっかりと活動によって体験的な理解というのが深まって、中学校に行った際に抵抗感持つことなく文法が学べるのではないかと感じました。

三省堂は、先ほど来バランスが取れていていいというお話、私もそのように感じています。特に印象に残ったものとしましては、5年生の50ページの世界のスポーツですとか、6年生の20ページの世界の祭り、62ページの世界の小学校、92ページの世界のいろいろな仕事というところで、視野が広がって、外国語の背景や文化に対する関心が非常に高まるのではないかなと思いました。

開隆堂は、5年生の128ページ、6年生の128ページなのですが、CAN-DOチェックがきめ細かく設定されていて、子どもたち一人ひとりが楽しみながらもレベルアップを図れるのではないかなと思いました。

以上、特に印象に残ったところでございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

私も東委員さんのおっしゃっているのとほとんど同じ内容なのですが、構成についてはどの会社も自己紹介、あるいは好きなもの、誕生日、時間割、できること、道案内などの7つから9つのUnitまたはLessonから成っています。このことは5年生の目次で見てもらうと分かるのですが、東書は4ページ、開隆堂は6ページ、光村は4ページ、教出は2ページ、啓林は1ページ、目次ですね、これを見ると分かると思います。

三省堂では、5年生の目次の2ページを見ると、誕生日、好きなもの、できることなど、これは同じような内容を扱ってはいるものの、1年間でやるものを、自己紹介をしよう、あこがれの人を紹介しよう、おすすめの場所を紹介しよう、この3つの大きな単元でくくっています。そし

て、1つの単元を、例えば10、11ページHOPでは単元全体の学習を見通す、12ページからのSTEPでは語句や表現を学んでコミュニケーションする、34ページJUMPでは、35ページにゴールが示されているのですが、この単元で身に付けたことを表現するといった構成で組み立てられており、このことが、見通しを持って自然なつながりの中で学習ができるようになっている理由かな、と思っています。

さらに、三省堂では書く、読むも、これも野口委員さんから話が出ましたが、27ページの下の「Let's Read and Write」や、36、37ページのみinnで歌おう、言葉の不思議、文字で遊ぼう、これもあるように、書く、読むなのですが、流れの中で無理なく入れ込んでいきます。こうしたところが、先ほど来申し上げていますが、報告書の中で、授業の中ではシンプルであるとか、あるいはポイントが焦点化されていて分かりやすいとか、苦手な子どもも楽しく取り組めるような工夫が見られるなどの評価につながっているものと思われます。

他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ、内容については以上といたします。

次に、調査の観点2、3、4については一括して協議いたします。調査の観点2、資料、調査の観点3、表記・表現、調査の観点4、総括について、ご意見ございましたらお願いいたします。

荒木委員。

荒木委員 2日間にわたる採択にあたりまして、全ての教科につままして学校からの調査、展示会のアンケートなどを読ませていただきました。視覚的に分かりやすいといったことに関するご意見が、全体を通して多く見られたという印象がありました。この英語につまましても、どの教科書につまましても、分かりやすい見せ方という点で様々な工夫がされていると感じました。

吉田教育長 渡辺委員。

渡辺委員 皆さんがおっしゃっていたとおり、どの教科書も単元があり、それに対してLessonであったりUnitで、目次を見ても、こういうことを学ぶのだなというのが子どもたちに想像がつくような形になっていて、さらにその学び方についてはパターンが決まっていて、分かりやすいという印象を受けました。

資料としまして、例えば東京書籍ですと「Picture Dictionary」、ほかの教科書もみんなワードブック的なものがついていて、どれも使いやすいなとは思ったのです。けれども、東京書籍が5、6年生で1冊になっていて、例えば授業で友達と会話しているときに、これ何て言うのだろうかというときにぱっと調べて、その単語を拾って会話につなげるということができないかなと感じがいたしました。

また、CAN-DOリストについても、一人ひとりの学びの速度があるので、あまりこれにこだわってほしくないというようなことが資料に書いてあって、私もまさしくそのとおりだと思いました。

学びで自分がどこまでできたのかとチェックをするのは、とても大切だとは思いますが、みんなができましたとはならないと思いますし、そうするとやはりできない子というのはいつもできない、友達に助けられて何とかできた、いつもそうになってしまうのではないかなという思いがあります。評価も大切だけれども、やはりまずは、友達と英語で会話ができて楽しかったというようなことが味わる、そんな授業を展開してほしいなと感じました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 資料についてになるかと思いますが、三省堂の「My Dictionary」、これが各パートの最後の各活動のところで、何ページを見れば書けますよという指示が出ていますので、そういうところも活用がしやすいのかなと思いました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 別な観点で協議したい内容等ございますか。これもよろしいでしょうかね。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 ないようですので、これより外国語の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 それでは、順次投票をお願いいたします。

〔順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはございませんか。

投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、野口委員さんと渡辺委員さんをお願いいたします。

〔立会人立会いの上開票〕

吉田教育長 それでは、集計が終わりましたので、投票結果についてご報告をいたします。

投票結果については、発行者の番号順に、発行者番号、発行者名、評価点の合計点を読み上げます。

2 番	東京書籍	2 4 点
9 番	開隆堂出版	2 2 点
1 5 番	三省堂	2 9 点
1 7 番	教育出版	1 8 点
3 8 番	光村図書出版	1 9 点
6 1 番	啓林館	1 8 点

以上のとおり、外国語の教科用図書は、15番、三省堂を採択することに決しました。

次に、特別支援教育に係る教科用図書について審議いたします。

選定資料等の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 特別支援教育に係る教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

杉本選定委員 まず、特別支援学級は学校教育法第81条により、障がいによる学習上または生活上の困難を克服するための教育を行うものとして規定されています。指導内容は、該当の小学校及び中学校に準ずるものとされており、教科の構成や教科書も通常の学級に準じて利用されています。しかし、特別支援学級や自閉症、情緒障害特別支援学級に在籍している児童生徒の中には、該当の学年と同様な教育課程を行うことが困難な実態であることが多いため、知的障害特別支援学校の学習指導要領を参考にして教育課程を編成することが認められています。

市内の特別支援学級の実情としましては、算数や国語といった教科の学習とともに、生活単元学習や日常生活の指導など知的障害特別支援学校の学習指導要領に規定されている枠組みで指導されることが多くございます。したがって、児童の実態に応じた授業で文部科学省が編集しています知的障害特別支援学校用の国語、算数、音楽、生活科の教科書を使用することは、特別支援学級においても妥当だと考えています。そこで、本日特別支援学級用の教科書として選定についてご検討いただくものは、知的障害特別支援学校小学校部用教科書、国語、算数、音楽、生活科、4教科の教科書でございます。それぞれ難易度の段階として、星1つ、2つ、3つの3種類が小学校部段階の各教科に編集されています。

それでは、各教科の教科書についてご説明させていただきます。はじめに、国語の教科書ですが、障がいを有する児童が内容を読み取ったり言語化したりすることにより、伝え合う力を育むように工夫されています。したがって、個別な支援が必要な児童のコミュニケーション能力を高めるには、使いやすい構成になっていまして、特別支援学級児童の標準的な発達段階に適合した内容になっていると言えます。具体的には、国語、星1つの12ページは、日常行われている生活の行動したものが絵とともに示されている段階から始まっています。28ページになりますと、人とのやり取りやコミュニケーションが必要な段階へと至りまして、日常生活での自立や、人との関わりに必要な言語活動を経験するというように、発展的に学ぶことができる工夫となってい

ます。

続いて、星2つの70ページ、星3つの60ページを見比べていただきますと、習熟度に従って、簡単な物語や説明文などを文章として理解する学習や、その文章を活用して劇やペープサートなどで動作化しながら表現活動ができるように工夫されています。これらには図や絵が多く使われており、またはカードが活用できるなど、文章を作る手助けが掲載されています。特別支援学級に就学、在籍する児童は、抽象的な思考が困難であることが多く、生活に根差した具体的な教材を活用して、生きる力としての言語活動を指導する必要があるとございます。この国語の教科書には、その目的を達成するために、内容、表現、構成において、よい教科書だと考えています。

続いて、算数の教科書についてご説明いたします。算数では、形作り、形集め、絵カードそろえなど簡単に授業内に取り入れられる活動が掲載されていまして、これらの掲載されている内容と同じ算数活動を行いながら学習内容を習得できるように工夫されています。星1つから星3つに進むにつれて、具体的なものを数えることから始まり、おはじきやブロックなどの半具体物を数える、あるいは数字とマッチングさせるというように、段階的に数を理解していくことができるような構成となっています。例えば数を数えるような学習については、星2つの10ページを見させていただきますと、段階的に理解させていくために活用される指導ができる構成がご理解いただけたと思います。また、この他にも給食や朝の支度、靴箱の利用など児童の日常の場面を取り上げて、学んだことを実際の生活の中で活用することができるような工夫がされています。特別支援学級では、小学校1年生から6年生まで在籍していますので、年齢差や発達段階の差が極めて大きいところがございます。算数における概念形成から生活に結びつける内容は、効果的な教科書となっていると考えます。

続いて、音楽の教科書について説明させていただきます。まず、興味を持って取り組むことができるように、教科書のつくりとしましては、歌詞に合わせた挿絵や写真が多く使われていて、曲想や歌詞の意味などがイメージしやすい構成になっています。さらに、楽器を鳴らして音を楽しむ活動や、生活になじみの深い歌が掲載されており、日常的に音楽を楽しむことができるように工夫されています。また、季節や行事に適した曲もバランスよく構成されています。具体的には、星1つの29、49ページには、手遊び歌が分かりやすい絵とともに掲載されています。このように言語化が難しい発達段階であっても、絵を見て、歌って、動作化することで、楽しみながら学ぶことができるようになっていきます。他には、童謡、唱歌や、広く人々に知られている日本の歌などが多く掲載されており、日本の音楽を広く学ぶことができるようになっていきます。

また、楽典に係る学習内容では、例えば星1つでは図と文字でリズムを表す記載から始まっていますが、星3つに至っては音楽記号が使われるようになっていくなど、発達段階に応じた記載内容の工夫がされています。

最後に、生活科の教科書についてご説明いたします。全体の構成としては、日常生活場面に関

わる事柄を多く扱う星1つから、他者との関わりを意識してくることが増える星2つ、社会との関わりを意識や植物の成長、生き物飼育等の知識を扱う内容も見られるようになる星3つのように、教科書の記載内容が表現している世界は徐々に広がっておりまして、一人ひとりの子どもの年齢や理解などの実態に応じた題材で学習することができるよう工夫されています。具体的には、星1つの4ページでは、起床や就寝など、日常生活の場面における身辺整理の絵をはじめ、登校の場面や給食の場面など、学校を含めた普段の生活の中で行動したり、見たり、聞いたりしている場面の絵が掲載されており、子どもたちに身に付けさせたい事柄について、題材ごとに教科書の内容と自分の生活とを結びつけて考えることができるよう工夫されています。

以上、特別支援学校用の国語、算数、音楽、生活科の教科書について説明させていただきました。

特別支援教育につきましては、複数の教科書会社から発行されている教科書を選ぶということではなく、文部科学省著作の教科書を採択するのか、しないのかということになりますが、特別支援学級において児童の実態、保護者の要望、学校での必要性に応じて教科書の採択の幅を広げ、より児童の教育的効果が上がるように特別支援学校用の教科書を採択していただけるとありがたいと考えています。

吉田教育長 ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて選定委員の回答を求めます。

はじめに、特別支援教育の教科用図書全般に関する質問はございますか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 選定委員会として、文部科学省著作の特別支援学校小学部用教科用図書の採択についてどのような意向がありますか、お話しください。今、若干話していただきましたけれども、詳しくお話をお願いします。

佐々木選定委員長 選定委員会では、調査報告書、法定教科書展示会会場において来場者の皆様が提出した意見なども参考にしつつ協議を行い、協議終了後、選定委員16名全員が教育委員会に推薦するかしないかについて記載し、無記名で投票いたしました。

その結果、16名全員一致で推薦することに賛成となりました。

したがって、文部科学省が編集しています。知的障害特別支援学校用の国語、算数、音楽、生活の教科書を活用することは、特別支援学級においても妥当だと思われます。

吉田教育長 よろしいですか。

野口教育長職務代理者 ありがとうございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 現在、越谷市の小学校で、この文部科学省著作の特別支援学校小学校用教科用図書を使用

している学校はありますでしょうか。

杉本選定委員 小学校1校で、国語、算数を使用しています。

吉田教育長 よろしいですか。

荒木委員 はい、ありがとうございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

山口委員。

山口委員 文科省著作の教科用図書は、全般的に見て、特別支援学校の児童が使用する上でどのような配慮がなされていますか。

杉本選定委員 全般的には、特別支援教育の教育課程を選択する児童においては、それぞれが有している障がい等の実態から、通常学級の同学年の児童と同様の教育課程で学習することには困難さがあります。そこで、例えば「読む」であれば、絵とともに平易な文章構成の題材で学ぶことができるという配慮がございします。また、「書く」であれば、文字の構成が視覚で捉えやすくなるように、文字の領域が大きくなっている配慮があることなどが挙げられます。

吉田教育長 よろしいですか。

山口委員 はい。

吉田教育長 特別支援教育の教科用図書全般に関わって、他に何かございますか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ、次に国語の教科用図書に関する質問はございますか。

東委員。

東委員 国語の教材の配列というのがどんなふうになっているのか、簡単に説明していただければと思います。

杉本選定委員 例えば星1つでは、ご覧いただくとお分かりになるように、前半のほとんどが絵を見て場面を考える題材が配列されており、こうした絵から、読む、話す内容項目が学習できるようになっています。

また、この題材では絵を見て教師が話しかけていくことで、聞く項目の学習を扱うことも可能です。具体的に文字を読む教材は、星1つでは後半に配列されていて、各項目は星1つの教科書の終わりで扱うという構成になっています。学習の仕方や学習する量は、星2つ、星3つへと進むにつれて、段階的に高度になっていきますが、どの星の教科書でも、学習指導要領の内容、項目を題材として扱う構成になっています。

吉田教育長 よろしいですか。

東委員 はい。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ、算数の教科用図書に関するご質問はございますか。

渡辺委員。

渡辺委員 算数に関しては、学びが生活に生かされることが大切かと思いますけれども、実際そのような内容になっているかということ。また、どのような工夫がされているかをもう少し詳しくお聞かせください。

杉本選定委員 星2つの(2)の26ページは、ものの長い、短いや、量の多い、少ない、あるいは空間の広い、狭いなどを学習するところです。題材から、学校生活の生活場面を中心に、様々な数や量感を比較して確かめる学習ができるようになっています。ここで扱っている活動場面は学校生活の中で繰り返されることです。したがって、学んだことの生活化が図られ、確かな理解につながっていく工夫がなされていると思います。

渡辺委員 ありがとうございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ、音楽の教科用図書に関するご質問はございますか。

荒木委員。

荒木委員 取り上げられている題材につきまして、身近な自然や四季を感じられるようなものや、日本の音楽について、ご説明いただければと思います。

杉本選定委員 音楽のどの星の目次も、例えば春の歌のように、季節ごとの歌の配列がなされていることが分かります。特に星2つの80ページに、日本の歌の取扱いがあることが分かります。さらに、その中には記号を使って日本の歌のリズムが学習できるようになっていることが分かります。こうしたところが挙げられると思います。

吉田教育長 よろしいですか。

荒木委員 はい、ありがとうございます。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 なければ、次に生活の教科用図書に関するご質問はございますか。

山口委員。

山口委員 児童が見たり、聞いたり、触れたり、体験的に活動することができるような工夫はありますか。

杉本選定委員 生活科の星2つの52ページでは、「先生のお手伝いをしよう」という題材があります。こうした内容の学習では、先生のお手伝いを通して自己有用感を高めていく活動ができます。体験的に学ぶことのできる内容の一つとして挙げられます。

また、57ページでは、身近整理等について望ましいものと、そうではないものの例の比較がで

きるように掲載されています。こうした題材の学習では、子どもたちの行動の質を高めていくことができるので、そうした工夫として挙げられると思います。

吉田教育長 よろしいですか。

山口委員 はい。

吉田教育長 他に何かございますでしょうか。全般にわたって、あるいは教科ごとにでも結構ですが、よろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 他になければ質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

特別支援教育に係る教科用図書は、国語、算数、音楽、生活を一括して審議しますので、ご意見をお願いします。

野口委員。

野口教育長職務代理者 本当に全体としてよくできていると私は思いました。

特に国語につきましては、これは星3つと思うのですが、身近な生活に根差したということでは、歓迎会とか遠足とか買物とか電話とか、身近な生活に根差したものを取り上げているということもありました。

算数につきましては、星1つ、星2つは分冊にして3つに、合計4冊に分けているということで、非常に個に応じた指導によく配慮されていると思いました。内容につきましても、先ほどの国語と同様ですが、身近な生活に根差した題材を、イラストを多用してよく取り上げていると思いました。

また、音楽につきましても、身近な自然や四季、年中行事等の題材となっているものが非常に多くて、学校及び日常生活とうまく関連させながら、関心を高める工夫がよくされていると思いました。星3つになりますと、今度音楽をつくろうというところで、創作を入れているということで、発達段階といいますか、お子さんの能力に応じて取り組めるようにしてあるなと思います。

生活科は、まさに子どもたちの生活に根差したということでは、家庭生活、地域での生活、学校生活、様々な場面が網羅されていて、よくできていると思いました。

全体としてシンプルに構成されているのですが、それがまた逆に子どもたちが活動に集中できるように工夫されていると思いました。そのため、当然採択していくのだらうと思っています。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 私も同じく、一人ひとりに応じて使えるような工夫、学びを日常の生活に生かせるような工夫がなされていると思いました。

吉田教育長 他にございますか。

渡辺委員。

渡辺委員 展示会アンケートの集計を見ますと、小学校教諭の方などは本校にも欲しいとか、そういう意見がたくさんございます。近年は、通級で支援学級に行かれるお子さんもいらっしゃるかと思うので、なるべくその子に合わせて、その教科だけはこれを使おうというふうに選べるのが、やはり必要なのかなと思いました。実際に展示会場で手に取って見てみたのですが、とても美しいカラーでできていて、透明シートがうまく工夫して使えるようになっていたもので、ぜひ本市でも採用して、できれば各学校に置かれるのがよろしいかと思いました。

吉田教育長 他にございますでしょうか。

山口委員。

山口委員 各教科、自己肯定感を高めつつ社会参画を促すような、自然にそれができるような流れになっていて、とてもいいなと思いました。

吉田教育長 私もほぼ同様なのですが、知的障害教育では、子どもたちが自立し、社会参加ができるよう自立的な生活に必要な事柄を体験的、实际的に学ぶという、いわゆる領域と教科を合わせた生活学習をすることがあるわけなのですが、この星本はそのことを意識して作られているので、その点においても有効なものと考えています。例えば国語の星3つの18ページでは、電話を取ろう、かけようというのを扱っています。16ページでは買物を扱っています。算数の星3つの98ページでは、実際に実物のお金を使ってということになると思うのですが、教科書では載せてありますけれども、買物をしたらということを想定して、お金を使って計算の仕方を学ぶようになっています。

星本の採択にあたっては、選定委員会の説明ありましたが、採択したら主たる教材として必ず使用するというものではありませんけれども、採択しないと使用できないということになるので、使用実績のあるなしに関わらず、使用可能な状態にしておく必要があると思います。

他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 ここに調査の観点等が載せてありますけれども、この1から4の観点以外で何かご意見ございましたらお願いいたします。特にございませんか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 ないようですので、これより特別支援教育の教科用図書に係る採択に入ります。

特別支援教育の教科用図書は、文部科学省著作の教科書のみになりますので、国語、算数、音楽、生活を一括して採択いたします。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、可とする場合は「○」を、否とする場合は「×」を記入し、多数決により「○」が過半数を超えた場合、採択とするものとします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 それでは、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 順次投票をお願いいたします。

〔順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはございませんか。

投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、東委員、それから山口委員を指名いたします。

〔立会人立会いの上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告いたします。

特別支援教育に係る教科用図書については、全員推薦するということでございますので、6票ということで採択することといたします。

以上をもちまして、予定していた全ての種目について審議が終了いたしました。

これより第33号議案「令和6年度使用小学校教科用図書の採択について」を採決いたします。

採択する教科用図書を、種目名、発行者（略称）の順に読み上げます。なお、発行者番号及び教科用図書名については省略いたします。

国語、光村図書出版。

書写、光村図書出版。

社会、東京書籍。

地図、帝国書院。

算数、東京書籍。

理科、学校図書。

生活、学校図書。

音楽、教育芸術社。

図画工作、開隆堂出版。

家庭、開隆堂出版。

体育（保健）、東京書籍。

外国語、三省堂。

道徳、学研。

それから、特別支援教育の国語、算数、音楽、生活を採択いたします。なお、特別支援教育の国語、数学、音楽、生活の教科用図書については、いずれも文部科学省著作でございます。

以上の教科用図書を採択する旨決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

吉田教育長 ご異議ないものと認めまして、本案は以上のとおり決定いたしました。

他に何かございませんか。よろしいでしょうか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 他になければ、以上といたします。

最後に、次回教育委員会会議の日時でございますが、8月24日、木曜日、午前10時から教育委員会室で開催したいと存じますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

吉田教育長 では、そのようにいたしますので、よろしくお願いいたします。

◎閉会の宣告

吉田教育長 これをもちまして、閉会といたします。

ありがとうございました。

(午後 4時35分)

この会議のてん末記載に相違ないことを証するため、署名する。

教 育 長

吉 田 茂

委 員

野 口 久 男

委 員

荒 木 明 子

委 員

渡 辺 律 子

委 員

山 口 文 平

委 員

東 宏 行

書 記

教育総務課調整幹

鈴木 理香